警察監獄學會雜誌

第七號

版權

目錄

- 清浦警保局長講演筆記
- 國家ノ貧民救濟法ニ就テ 八木秀太郎未定稿
- 典獄諸君ノ歸任ヲ送ル 小河滋二郎
- 監獄ノ本旨 文學士久米金彌
- 論說**
- 警察巡閱
- 巡査の制服
- 刑事被告人の勸査に就テ
- 故鈴木清助氏の履歴
- 官等俸給例の改正
- 監獄官練習所修業式
- 監獄顧問の演説
- 監獄の防火演習
- 罪質區分
- 立科
- 帶劍
- 最敬
- 監獄官練習所
- 理髮師の呼吸器
- 戸の閉き方
- 井戸浚へ
- フエンセーパツハ氏

- 統計**
- 全國在監人統計
- 法令註解**
- 警察巡閱規則註解
- 問答**
- 街路撒水ノ利害如何 光陸生
- 雜錄**
- 囚人ノ賞罰ニ就テ 九坡逸夫
- 典獄諸君
- 家屋ノ高サ
- 寄書**
- 給與工錢ヲ論ス 長谷川永太郎
- 愛媛縣監獄吏員服務規程 銀街迂夫
- 地方警察官諸君ニ告グ
- 翻譯**
- メルボオン監獄吏員服務規程 警保局出仕眞木喬譯
- 西班牙國監獄 朝日奈又三郎譯
- 附錄**
- 消防講義 警視廳消防本署御藏書

者ニシテ原因何タリシヤヲ判決スルガ如キ事ハ後ニ何勿論或ル点ヨリ云フ時ハ不注意ニ因ルト云ハ免ル至リ發火ノ場所發火ノ模様其他凡テ結果ヨリ推測スベカラザレト原因ヲ推測スルニ至テハ或ハ日ノトス

●別科會員諸君ニ告ク

今回警察監獄學會規則改正ニ付是迄發行致來候本科別科講義錄茲ニ雜誌ノ内別科講義錄ノ一種ハ改正警察監獄學會ニ於テ發行不相成然ルニ第一期各學科卒業ノ期モ近キニ迫リ且是迄ノ關係モ有之元主磐礪村松元ニ於テ引續キ發行スルコトニ可就テハ左ノ廉々豫メ御了諾相成度此旨廣告ス

- 一 本年六月ヨリ毎月一科若クハ二科目宛ヲ完結シ向フ六ヶ月ヲ以全科卒業ヲ期ス
- 一 一集ノ紙數ハ學科結了ノ際豫定シ難シト雖モ從前發行ノモノト大差ナカラシメテ期ス
- 一 本年六月以降別科講義錄ノ會費ハ一ヶ月金八錢五厘ニシテ全國無遞送料トス但改正警察監獄學會會員タルコトヲ證明セラル、キハ一ヶ月特ニ六錢五厘ヲ以配布スベシ
- 一 本年五月以前ニ係ル警察監獄學會事務並ニ本年六月以降別科講義錄發行上ニ關スル往復ハ東京市四谷區荒木町二十二番地礪村松元宛ヲ以テシ若シ便宜上改正警察監獄學會ニ宛ラルヘキ信書又ハ金員等同封セラル、キハ送金報知書又ハ其事件ヲ格別ニ認メ送付セラレタシ
- 一 從來ノ別科講義錄購讀ノ諸君ハ繼續會員ト見做シ別科講義錄發行ノ都度引續キ送付スヘシ

明治二十三年五月

元警察監獄學會主管
礪村松元

警察監獄學會規則

第四卷 會員

警察監獄學會規則

- 第一章 名稱
  - 第一條 本會ヲ名ケテ警察監獄學會ト稱ス
  - 第二章 目的
    - 第二條 本會ノ目的ハ警察及監獄ニ關スル學理及其應用ヲ講究スルニ在リ
  - 第三章 會務
    - 第三條 前章ノ目的ヲ達スルカ爲メ本會ニ於テ執行スヘキ至要ノ事項左ノ如シ
      - 一 警察及監獄上緊要ノ事項ヲ研究審查スル事
      - 二 警察及監獄ニ關スル事項ニ付各地方及外國各地ト通信往復スル事
      - 三 時々會員ノ集會ヲ開キ警察及監獄ニ關スル事項ヲ講談討論スル事
      - 四 雜誌ノ類ヲ刊行シ本會ニ於テ研究審查シタテ會員ニ頒ツ事
      - 五 警察及監獄ニ關スル著述翻譯ニシテ有益ナル事ヲ認ムルモノハ之ヲ出版シテ廣ク頒布スル事
      - 六 文庫ヲ設立シ警察及監獄ニ關スル内外ノ書籍、新聞紙、雜誌、報告書等ヲ蒐集シ時宜ニ依リ之ヲ公開スル事
      - 七 學校ヲ設立シ警察官及監獄官タラント欲スル者ヲ養成スル事
      - 八 本會ハ警察又ハ監獄ニ關スル事業ニ就キ一個人又ハ團體等ノ求メニ應ニ相當ノ助力ヲ與フルコトアルヘシ
  - 第四章 會員
    - 第五條 前二條ニ定メタル事項ハ漸次ニ執行スルモ本會ニシテ其方法順序ハ評議員ノ議定ヲ經テ會長之ヲ定ム

第四章 會員

- 第六條 會員ヲ分テ甲種會員及乙種會員トナシ別ニ名譽會員ヲ置ク
- 第七條 本會ノ目的ニ同意ノ者ニシテ甲種會員タラント欲フル者ハ本會ニ申込ミ會長ノ承諾ヲ經ベシ但シ甲種會員タルコトヲ得ル者ハ警察又ハ監獄ニ關係アル學科ヲ修メ又ハ其ノ實歴アル者ニ限ル
- 乙種會員タラント欲フルモノハ其旨ヲ本會ニ申込ムベシ
- 第八條 名譽會員ハ學者政治家又ハ名譽アル人ニシテ警察監獄學上ニ功勞アリ若クハ本會ニ裨益アリト認ムル者ニ就テ本會之ヲ推選ス
- 第九條 會員退會セント欲スル者ハ其旨ヲ本會ニ通知スヘシ
- 第十條 甲種會員ハ會費トシテ壹名ニ付一ケ年金三圓ヲ納ムヘシ但シ一時ニ金貳拾圓以上ヲ納ムル者ハ本文ノ會費ヲ要セス終身甲種會員ノ資格ヲ保ツコトヲ得
- 第十一條 乙種會員ハ會費トシテ壹名ニ付一ケ年金壹圓五拾錢ヲ納ムヘシ
- 第十二條 懇親宴會費其他臨時ニ要スル費用ハ別ニ之ヲ納ムルモノトス
- 第十三條 始メテ甲種會員タル者ハ本會基金ニ充ツル爲メ金壹圓ヲ納ムヘシ
- 第十四條 本會ニハ左ノ役員ヲ置ク
  - 會長 壹名
  - 副會長 壹名
  - 評議員 拾名
  - 事務委員 若干名
  - 會長ハ本會一切ノ事ヲ總理ス
- 第十五條

第十六條 副會長ハ會長ヲ補佐シ事故アルトキハ之
 カ代理ヲナス
 第十七條 評議員ハ至要ナル職務ノ議定ヲ爲ス
 第十八條 事務委員ハ互選ヲ以テ壹名ヲ委員長トシ
 分課ヲ定メテ本會ニ關スル庶務ヲ處理ス
 第十九條 會長ハ必要ニ應ジ會員中ヨリ特ニ調査委
 員ヲ指名シ警察又ハ監獄ニ關スル事項ノ調査ヲ囑
 托スルコトアルヘシ
 第二十條 會長ハ書記及使丁ヲ傭使シ相當ノ給料ヲ給
 與スルコトヲ得
 第二十一條 會長副會長及評議員ハ總集會ニ於テ投票
 ノ法ヲ以テ之ヲ推選ス
 第二十二條 事務委員ハ甲種會員ノ中ニ就キ會長之ヲ
 選任ス
 第二十三條 會長副會長及評議員ノ任期ハ二ケ年トス
 但改選ノ時ハ前任ノ者ヲ補選スルコトヲ得
 第二十四條 第六章 集會
 本會ハ毎年一月總集會ヲ開ク
 必要アルトキハ臨時ニ總集會ヲ開クコトアルヘシ
 第二十五條 講談會討議會ハ一ケ年少クトモ六回開設
 スルモノトス
 第二十六條 總テ會場及會日ハ會長之ヲ定メ其都度會
 員ニ通知スルモノトス
 第二十七條 第七章 會計
 本會ノ會計年度ハ一月一日ニ始リ十二月
 卅一日ニ終ル
 第二十八條 會費徵收方法ハ左ノ例ニ依ル
 甲種會員ノ會費ハ一ケ年分ヲ三分シ三月、
 七月、十一月ニ各其一分ヲ徵收ス但會員ノ
 都合ニ依リ一ケ年分ヲ取纏メ收納スルモ妨
 ナシ

警察監獄学会雑誌 第1卷 第7号

ラナレノ亦アリト云ヒトトモトモ...

一 乙種會員ノ會費ハ一ケ年分ヲ十二分シ毎月
 其一分ヲ徵收ス但會員ノ都合ニ依リ數ケ月
 分ヲ取纏メ收納スルモ妨ナシ
 本會ノ經費ハ會費其他ノ收入金ヲ以テ之
 ニ充ツ
 第二十九條 本會基金ハ終身會員ノ一時出金入金寄
 附金及毎年ノ收入殘餘等ヲ以テ積立ツヘシ
 第三十條 本會ハ金圓物品等ヲ寄附スル者アルト
 キハ之ヲ受領スヘシ
 第三十一條 本會々計ノ報告ハ毎年總集會ニ於テ之
 ヲ爲ス
 第三十二條 第八章 雜則
 第三十三條 此規則ヲ執行スルカ爲メノ細則ハ評議
 員ノ議定ヲ經テ會長之ヲ定ムルコトヲ得
 第三十四條 此規則ノ改正ハ總集會ニ於テ議定スヘ
 キモノトス但シ議席ニハ少クトモ會員總數拾分ノ
 一以上ノ出席者ヲ要シ尙ホ其三分ノ二以上ノ同意
 アルニアラサレハ之レヲ決議スルコトヲ得サルモ
 ノトス
 第三十五條 會員ニ拾名以上ノ同意ヲ以テ此規則ノ
 改正ヲ發議スルコトヲ得
 第三十六條 本會事務所ハ當分ノ内東京市四谷區荒
 木町二十二番地ニ置ク
 第三十七條 從來發行スル雜誌及講義録ハ別科講義
 録ヲ除ク外仍ホ引續發行スルモノトス

警察監獄學會雜誌第七號

論說

○左ニ掲クルハ清浦警保局長カ監獄官練習所ニ於テ講演セラレタル所ノ大意ナリ今許可ヲ得タレハ本號ニハ先ツ第一第二ノ二回分チ登錄ス此講演ハ固ヨリ監獄官殊ニハ今回ノ召集員タル典獄又ハ之ニ代ルヘキ所ノ諸君ノ爲メニセラレタルモノナレトモ其趣旨ヲ玩味スレハ自餘ノ司獄官及警察官ニ取リテモ大ニ利スル所ナキニアサルヘシ故ニ會員諸君ノ普ク熟讀アラフコトヲ乞フ茲ニ一言ヲ添ユルコト爾リ

第一回

近來監獄改良ノ問題朝野ノ間ニ噴然タリ既ニ改良ト唱フ其施爲スル上ニ於テ弊ヲ去リ良ニ改メサルヘカ

論說

ラサルノ跡アリト認メサルヲ得ス輒近監獄ノ事務モ人文ノ開進スルト共ニ退々改良シ之ヲ往時ニ比スレハ大ニ面目チ一新シタルヲ觀ル然リ而シテ之ヲ他ノ事物ノ改進シタルニ比シ又進テ之ヲ歐米諸國獄制ノ能ク整理シタルニ較フレハ頗ル幼稚ノ地步ニ立脚スルモノナルヲ知ルヘシ

事物ノ改良ト稱スルハ甚タ宜シキ事ナリ事物ハ同一ノ地線ニ停滯セス進行セザレハ則チ退却ス自然ノ理勢ナリ故ニ當局者ハ姑息苟安ノ念ヲ掃蕩シ改良ノ上ニ猶ホ改良アルコトヲ忘ルヘカラス

監獄改良ヲ唱フル者勦モスレハ

- 一 監獄ヲ改築スルコト
- 一 囚徒ヲ寬待スルコト

トナリテ改良トナスモノ、如シ素トヨリ監獄脆弱腐朽シテ衛生ニ適セス檢束ニ便ナラス悔過遷善ニ妨ケアルモノ、如キハ漸次監獄ノ主義目的ヲ達スルノ程

難シ紀律カ人ヲ使ヒ人カ紀律ニ使ハル、様ニナリテ
 コソ始メテ運轉活動ノ妙ヲ觀ルヲ得ヘシ然ルトキハ
 使フ人カ換リテモ使ハル、人カ變リテモ一定不變ノ
 紀律カ使フ人ト使ハル、人トノ間ヲ縫合シテ圓滑ナ
 ラシムル爲メ執務上扨格支吾スルノ患ナカルヘシ
 典獄ニ最モ嚴禁スヘキ者ニアリ

- 第一 部下ニ放任シテ自ラ事ヲ省ミサル事
- 第二 外形ヲ修飾シテ實効ヲ主トセサル事

從來ノ習慣トシテ一部局ニ長タル者ハ躬身ヲ事ヲ執
 ラス又自ラ事ヲ省ミス自己ハ單ニ其椅子ヲ占ムルノ
 ミニシテ教令施ス所ナク唯部下ノ提出スル文案ニ空
 シク旨印ヲ捺シ以テ盡セリト爲ヌ部下モ亦却テ斯ノ
 如キ木偶同様ノ人物ヲ戴キテ長官ノ器量備ハル人ト
 ナシタルハ大ナル誤ナリ典獄タル者ハ恰モ一家ノ主
 婦ノ其家事ニ於ケルカ如ク瑣細ノ點ニ至ル迄注意周
 到ナラサルヘカラス然ラサレハ之ヲ他ニ委セタルノ

- 一 上下ノ秩序ヲ鄭重ニシ禮節ヲ嚴守スルコト
  - 一 官守ヲ明書シテ相推讓シ相侵犯セサルコト
  - 一 其瞻視ヲ正シシキ其容貌ヲ儼ニシ姿勢ノ中正ヲ保ツコト
  - 一 忠誠ヲ以テ勤務ニ服シ危難ニ臨ンテ一身ヲ犠牲ニスルノ勇ヲ養フコト
  - 一 降令者ハ命令ヲ嚴明ニシテ受令者ハ命令ヲ慎重スルコト
  - 一 執務ト其他ノ場合トヲ問ハス時間ヲ嚴守スルコト
- (時ハ即是レ金ナリ時ヲ惜ム宜シク金ノ如クナルヘシ時間ノ經過ヲ緩漫ニスルヨリ時機ヲ失シ其守ルヘキ要所ニ空隙ヲ生シ其空隙ニ乗セラレテ囚徒逃脫其他種々不都合ヲ生スルコトアリ慎マサルヘカラス)
- 紀律ハ官務ノ柱礎ナリ司獄官ニシテ紀律ナキハ是レ

ミニテハ隅カラ隅マテ行届クコトハ出來能ハサルヘシ
 部下ニ放任シテ自ラ事ヲ省ミサルノ弊ハ紀律紊亂
 シテ其極終ニ各人自ラ其任務ヲ盡サハルニ至ル

外觀ヲ修飾シテ不体裁ヲ蔽ヒ以テ一時ニ苟安セント
 欲スルハ自然人情ノ免カレ難キコトナレトモ事物改
 良ノ點ヨリ論スレハ其病患焉ヨリ大ナルハナシ何ト
 ナレハ外觀ヲ修飾スルモノハ一時矚眼者ヲ瞞着セソ
 トスルノ意ニ出ルモノニシテ真誠ニ實効ヲ資ラント
 スルノ意ニ乏シキモノナレハナリ具眼者ヨリ之ヲ觀
 ルトキハ甚ク笑フニ堪タリ各位ハ虚飾ヲ喜フノ人ニ
 アラサルヲ信ス然レトモ其部屬等ニ在テハ改良ヲ謀
 ルノ誤解ヨリシテ自然實益ヲ顧ミスシテ體裁ヲ競フ
 カ如キ場合ニ陥ルコトナキニシモアラス亦深ク省ミ
 サルヘカラス

紀律ヲ嚴正ニ施行スルニ付キ其要ヲ約スレハ左ノ數
 項ニ歸ス

第二一回

司獄官ナキナリ各位歸任ノ後ハ先ツ第一着ニ紀律ヲ
 正シクスルニ力ヲ盡シ監獄ノ面目ヲ一新スルニ勉メ
 ラレンコトヲ希望ス

前回ノ講話ニ於テ紀律ニ關スル綱領ヲ説示シタリ今
 日ハ仍ホ紀律ニ關スル節目ヲ申述スヘシ

或人某國ノ軍隊ヲ評シテ曰ク是ハ明治十五年頃ノ事ニ係ル余カ現ニ
 目撃シタル所ニ依レハ兵曹ニシテ隊伍行進歩哨若ク
 ハ立哨中笑テ傍人ニ語ルアリ又ハ煙ヲ吹クアリ營中
 ニ於テ銃ヲ枕トシテ情眠ヲ貪ルアリ賭シテ勝負ヲ爭
 フアリ命令ヲ受クルモ依違期ノ如クニセサルモノア
 リ斯ノ如キ情兵ハ假令ヒ幾百萬アルモ寧ロ國ニ一兵
 ナシト云フモ亦謬言ニアラスト是レ職トシテ紀律ノ
 能ク立タス上官タル者ノ指揮統率其法ヲ失シタルニ
 基因セスンハアラサルナリ

司獄官吏ノ中ニハ往々不紀律ナルコト某國兵曹ノ如キ甚タシキコトナシト雖モ紀律正シキニ慣レタル眼ヲ以テ觀察スレハ不紀律ナル点亦尠カラサルヘシ不紀律ニ慣レタル眼ハ不紀律ヲ看破スルコト難シ壺ヲ抱テ輕重ヲ知ル者ハ却テ壺外ニアルニアラスヤ門外望テ高下ヲ知ル者ハ必ス室外ニアルニアラスヤ門外凜ノ觀察批評ト雖モ我レニ取テハ頂門ノ一針トシテ亦大ニ意ヲ注ク所アルヲ要ス

凡ソ物ハ物ニ刺撃ヲ受ケ物ト競争スルニアラサレハ發達進歩スルモノニアラス草木ノ夏日ニ於テ蒼蒼トシテ繁茂スルハ冬日ニ於テ風霜森嚴ノ刺撃アルカ爲メナリ一國ノ文明富強ニ赴クハ外列國トノ競争アルヲ以テナリ故ニ人ハ人ヨリ刺撃ヲ受ケ國ハ國ト競争スルニアラサレハ發達富強ニ進ムコト遅々タルノミナラス其勢自然却退ニ赴クモノナリ

監獄ハ一種ノ別天地ニシテ監獄ノ規則ニ定メタルモ張ラスシテ大綱舉ルコトハ理ニ於テ出來カタキモノナリ全体ノ健康ヲ保タントモハ一小局部ノ衛生ト雖モ怠ルヘカラサルカ如シ

モ、怠、ル、ヘ、カ、ラ、サ、ル、カ、如、シ

下、等、司、獄、官、(看守以下)囚、徒、ヲ、粗、暴、苛、虐、ニ、處、遇、シ、終、ニ、傷、痍、若、ク、ハ、殺、死、ス、ル、ニ、至、ル、モ、ノ、ア、リ、蓋、シ、囚、徒、ノ、反、上、抗、命、シ、テ、測、ラ、ス、過、度、ニ、失、シ、事、茲、ニ、至、リ、タ、ル、モ、ノ、ナ、ル、ヘ、シ、ト、雖、モ、甚、タ、不、法、ノ、所、爲、ト、謂、ハ、サ、ル、ヘ、カ、ラ、ス、夫、レ、居、ハ、氣、ヲ、移、シ、習、ハ、性、ト、ナ、ル、モ、ノ、ナ、レ、ハ、日、常、囚、徒、ノ、頑、冥、強、硬、ナ、ル、者、ニ、親、接、ス、レ、ハ、從、テ、看、守、等、ノ、氣、象、モ、豪、宕、ニ、移、ル、ヘ、キ、ハ、自、然、ノ、情、ナ、リ、彼、ノ、頑、冥、強、硬、ナ、ル、囚、徒、ノ、如、キ、ハ、固、ヨ、リ、柔、軟、手、段、ヲ、以、テ、シ、テ、ハ、駕、御、シ、難、キ、場、合、ア、ル、ヘ、シ、ト、雖、モ、之、ヲ、處、遇、ス、ル、ニ、當、リ、其、依、ル、ヘ、キ、規、則、ニ、依、ラ、ス、シ、テ、其、己、レ、ノ、下、シ、タル、指、圖、ニ、從、ハ、ス、又、ハ、己、レ、ニ、抵、抗、シ、タ、リ、ト、テ、面、ノ、ア、タ、リ、之、ヲ、責、罰、ス、ル、ハ、是、レ、之、ヲ、責、罰、ス、ル、ニ、ア、ラ、ス、シ、テ、一、朝、ノ、怒、ニ、乘、シ、報、復、ヲ、試、ム、ル、モ、ノ、ナ、リ、是、レ、豈、ニ、小、人、ノ、所、爲、ト、謂、ハ、サ、ル、ヘ、ケ、ン、ヤ

ノ、外、世、人、ノ、縱、覽、ヲ、許、サ、ス、時、ヨ、リ、巡、閱、官、又、ハ、府、縣、會、議、員、又、稀、レ、ニ、ハ、囚、徒、ヨ、リ、刺、撃、ヲ、受、ク、ル、コ、ト、ア、リ、ト、雖、モ、日、常、其、施、ス、所、ニ、付、刺、撃、ヲ、受、ク、ル、コ、ト、ハ、甚、少、ナ、シ、其、刺、撃、ヲ、受、ク、ル、コ、ト、少、キ、カ、爲、メ、荷、安、シ、易、ク、シ、テ、改、良、ノ、念、慮、ヲ、惹、起、ス、コ、ト、難、シ、刺、撃、ハ、改、良、ヲ、促、ス、ノ、興、奮、劑、ナ、レ、ハ、監、獄、官、ハ、他、ヨ、リ、刺、撃、ノ、興、奮、劑、ヲ、投、ス、ル、モ、ノ、ア、レ、ハ、欣、然、ト、シ、テ、之、ヲ、受、ケ、改、良、ノ、方、針、ヲ、執、ラ、サ、ル、ヘ、カ、ラ、ス、余、ハ、今、茲、ニ、故、サ、ラ、ニ、余、カ、平、素、耳、擊、耳、聞、セ、シ、事、項、中、其、最、モ、瑣、々、タ、ル、條、件、ヲ、舉、ケ、各、位、ニ、注、意、ヲ、乞、ハ、ン、ト、ス、各、位、ハ、斯、ノ、如、キ、事、ハ、百、モ、承、知、ト、云、フ、領、見、ヲ、去、テ、必、ラ、ス、之、ヲ、實、行、セ、ラ、レ、ン、コ、ト、ヲ、望、ム、蓋、シ、物、ハ、小、チ、積、テ、大、ニ、至、ラ、シ、メ、サ、レ、ハ、精、美、ナ、ル、組、織、ヲ、ナ、ス、コ、ト、難、キ、モ、ハ、ナ、レ、ハ、ナ、リ、彼、ノ、軍、隊、ヲ、看、ス、ヤ、内、ハ、以、テ、國、家、ヲ、保、護、シ、外、ハ、以、テ、敵、國、外、患、ニ、備、フ、ル、所、ノ、一、大、團、隊、ナ、リ、而、シ、テ、其、紀、律、ヲ、觀、察、ス、レ、ハ、一、兵、卒、ノ、姿、勢、動、作、ヲ、モ、之、ヲ、正、シ、之、ヲ、咎、メ、テ、紀、律、ニ、率、由、セ、シ、ム、ル、ニ、ア、ラ、ス、ヤ、其、細、目

兩三年前英國ニ於テ一婦女ノ殺害セラレタルコトアルヤ同國人民ハ該殺害者ヲ捜査シ能ハサルナリニ警視總監ノ責ニ歸シ遂ニ警視總監ヲ辭職セシメ且現内閣ノ變更ヲ生セントスルマテハ人心大ニ動搖セシト云フ個ハ或ル一種ノ原由ニ出テタルヨリ一層騒然タルニ至リタル次第ナレトモ兎ニ角人權ヲ重ニスル氣風夫レ斯ノ如シ人權ノ輕重ニ至テハ洋ノ東西ニ於テ豈ニ異ナルノ理アラシヤ人權ヲ重ニスヘキ今日ニ在テハ假令ヒ囚徒ト雖モ獄則ニ依ルノ外ハ妄ニ責罰ヲ加フヘキモノニアラス況ンヤ歐打拷責シテ之ヲ死ニ致スカ如キコトアリテハ其加害者ハ刑法ニ依テ其罪ヲ問ハルニモセヨ其局ニ當ル上官ハ上

天皇陛下ニ對シ奉リ下同胞人民ニ對シ實ニ恐縮慙死ノ外ナシ是等ノ事ハ素トヨリ絶テナクシテ稀レニ有ル等ノ所爲ナレトモ憲法施行ノ時代トナリテ特ニ戒慎スル所ナクンハアルヘカラス故ニ下等司獄官ト雖モ

多少法律ノ意得アルヲ要ス此點ニ付テハ別ニ其方法ニ付講話スル所アラントス

監獄ハ別天地ニシテ其裡ニ栖息スル囚徒ナレハ世間ノ狀況ヲ知ルニ由ナキ譯ナリ尤モ新入ノ囚徒ト同監シテ世間ノ狀況ヲ聞知スル等ノコトアルヘシト雖モ此外ニ猶ホ一種ノ之ヲ聞知スルノ途アリト云フコトナ現ニ過日迄某地方ノ監獄ニ拘禁セラレ居タル者ヨリ直接ニ聞知セリ下等司獄官等ハ上等司獄官ノ眼ニ觸レサル所ニ在テハ無聊ノ餘リ職務外ノ事ニ涉リ囚徒ト言語ヲ交セ囚徒ハ巧ニ鈎シテ看守ヨリ世間ノ事情ヲ聞知スルコトヲ得ト果シテ斯ノ如キコトアリシトセンカ實ニ規則ニ違背スルノ甚シキモノナリ斯ノ如キ官吏ニテハ囚徒ニ對シ如何ナル事ヲ漏洩内通セシモ亦測リ難シ豈ニ危險ナラスヤ
囚徒ヲ處遇スルニハ監獄則及ヒ施行細則ニ定ムル所ニ依ルノ外ハ平等均一ナラサルヘカラス若シ彼レニ

コトマラストテ役人ノ眼ノ明ナラス又ハ愛憎ノ心アルヨリシテ狡猾漢ハ僥倖ヲ博シ横直者ハ不幸ヲ蒙ムルコトヲ意味シタルモノナリト素ヨリ監獄則ニ就役時間及科程ノ規定モアルコトナレハ右ニ述ルカ如キ愛憎偏頗ノコトアルヘキ筈ナシ蓋シ囚徒ノ惡シサマニ形容シタル一場ノ談柄ニ過キサルヘシト雖モ役場及役業ノ種類ニ依テハ斷シテ之レナシトセス是等モ囚徒不平ノ起因トナリ從テ役業ニ精勵セサルノ結果トナラン

人民ヨリ囚徒ニ面接セント請ヒ又ハ差入人物ヲ差入レシカ爲メ監獄署ニ出頭シタル場合ニ於テ先ツ之レニ接スル者ハ下級ノ役員ナリ然ルニ其人民ニ接スルノ狀ヲ觀察スルニ其身ノ小吏冷倖タルヲモ省ミス隨分立派ナル人民ニ對シ往々爾汝ノ言其他卑シメタル言語ヲ用サル者アルニ接セリ兎角官尊民卑ノ弊ハ上等官吏ヨリ却テ下級官吏ノ間ニ甚シク且囚徒ヤ刑事被

厚クシテ是ニ薄ク甲ニ親密ニシテ乙ニ疎遠ナランカ囚徒ハ其處遇方ニ付不快ナル感觸ヲ懷キ終ニ賞罰ニマテ不公平アルカ如クニ疑ヲ生シ是レヨリシテ同囚相互間ノ平和ヲ破リ從テ官吏ノ命令ニ抗スルノ念ヲ起シ一步ヲ進ムレハ反獄ノ企トナルニ至ル蓋シ人ノ情トシテ人ニ對スルヤ自然厚薄親疎ノ差別アルヲ免カレサルモノナレト苟クモ之ヲ聲色ニ顯ハストキハ人ヲシテ忽チ不滿ヲ抱カシム人君タルモノハ一舉一笑ヲ吝ムカ如ク容易ニ喜怒ノ色ヲ表シ愛憎ノ聲ヲ放ツヘカラス

囚徒仲間ノ言ニ何誰ノ目先七分ニ仕事三分ナルヲ以テ役人ノ手前都合宜シ何某ハ目先三分ニ仕事七分ナルヲ以テ役人手前アシ、ト申スコトアリト聞ク是レハ之レ役人ノ眼前サヘ能ク取繕ヒサヘスレハ實地仕事ニ惰リテモ勉勵シタル姿トナリ役人ノ目先キチ甘ク取繕ハサレハ實地ノ役業ニハ勉勵シテモ役人ノ目

告人ニ用件アリテ參リタルモノナレハ其者ヲモ囚徒ヤ被告人ニ準視スルノ風アルモノ、如シ是レ甚タ失當ノ事ニシテ是等ノ者ニ接スルニハ對等ノ禮義言語ヲ用ヒ敢テ不敬ノコトアルヘカラス又出署シタル者ヲ長時間空シク之ヲ待タセ爲メニ繁忙ナル職業アル者ナトニ迷惑ヲ掛ルコトナシトセス凡ソ事ハ己レ自ラ其地ニ在ルノ心得ヲ以テ考ルホト痛痒ノ判然スルモノハアラシ若シ御互ニシテ前顯ノ如キ處遇ニ對セハ如何隨分腹モ立チ癪ニサワルコトニハアラスヤ己レノ欲セサル所ハ之ヲ人ニ施スコト勿レノ聖言アリ典獄ノ任ニ在ル各位ハ差入人ノ控席マテモ巡視シ時々其掛ノ吏員ヲ監督誡諭セラレハ右ノ如キ不都合ハ忽チ消滅スヘシ
刑事被告人ニ接スル吏員ノ如キハ最モ精撰セサルヘカラス其間ニ種々ナル弊害ノ生スルハ余ノ言ヲ待タズシテ各位ノ胸中ニ感觸セラル、所ナラン從來我國

ノ官吏就中警察官監獄官ノ人民ニ對スルヤ尊大倨傲ノ弊チ免レヌ夫レ然リ然レモ金ニ穢レテ職ヲ瀆スカ如キ汚行アルコトハ之ヲ耳ニスル甚タ少シ尊大倨傲ハ其情淡泊猶ホ恕スヘシ貪賄瀆職ハ其情狡惡憎ムヘシ恕スヘカラス畢竟尊大倨傲ハ封建武士ノ餘弊ニシテ貪賄瀆職ノ弊ナキモ亦封建士人教育ノ然ラシムル結果ナリ將來人文ノ開進スルト共ニ尊大倨傲ノ弊ハ自然消滅スルモ廉耻節義ノ風地ヲ掃ヒ瀆職ノ弊踵テ生セシコトヲ恐ル是レ教會及監督上ニ於テ未雨ニ綢繆スルノ準備ナカルヘカラス

教誨ノ席ニ立會フ者ノ如キハ教誨中最モ容儀ヲ正クシ警視ヲ嚴コセサルヘカラス其立會ハ素トヨリ囚徒取締ノ爲メニシテ教誨聽聞ノ爲メニアラスト雖モ教誨ニ對シ倦厭ノ色ヲ露ハシ視廳ノ體度ヲ謹マサルカ如キコトアラハ囚徒モ亦自然教誨ヲ輕視浮聽スルノ情ヲ起スニ至ル工場監視ノ場合等ニ於テモ亦然リ此

要セスシテ自ラ悟了セラル、所アルヘシ之ヲ要スルニ紀律ヲ嚴正ニシテ瑣細ノ言語動作ニ至ル迄能ク注意セシムルニアラサレハ其情様某國軍隊ト一般識者ノ笑ヲ受クルチ免カレサルヘシ表面ノ不体裁ニ付笑ヲ招クハ猶恕スヘシ表面ノ不体裁不紀律ヨリシテ精神ノ不紀律ニ流レ活潑ノ動作ヲ關クニ於テハ監獄ニ監獄官吏ナシト云ハル、モ亦其誦ヲ辞スルチ得サルヘシ看守ノ如キハ志願的ノ就職者ナレハ彼ノ義務的服役ノ兵員トハ其趣チ異ニスル所アリト雖モ亦他ノ吏員トモ異ナレハ可成軍人紀律ノ如ク嚴正ナラシメシコト希望ニ堪ヘス

○國家ノ貧民救濟法ニ就テ

八木秀太郎 未定稿

曩キニ濟貧警察論ト題スル一稿ヲ草シテ本誌ニ掲載シタルコトアリ然レトモ未ダ愚意ノ十一ヲ盡クスニ

場合等ニ喫煙スルナトノ不体裁ナキハ勿論ナレモ或ハ密々行フ者ナキヤ

囚徒ノ言語動作規則ノ如クナラサルモ其瑣々タル事柄ニ於テハ之ヲ法ノ如クナスヘシト令スヘキヲ令セサルコト又ハ法ニ背クヲ以テ爲スヘカラスト禁スヘキヲ禁セサルコト往々ナシトセス是レ囚徒ノ爲メニ法ヲ蹂躪セラル、モノナリ斯クノ如クニシテ豈ニ懲戒ノ實ヲ舉クルコトヲ得ヘケンヤ之レニ反シ法外ノ命令又ハ理窟ニ合ハヌ小言ハ斷シテ之ヲ爲サ、ル様注意セシムヘシ囚徒ハ無理ト思惟スルモ勢之レニ服從セサルチ得ス而テ服從スルモ其心ニ於テハ不平ヲ抱キ其下令者ニ對シ輕侮心ヲ生シ終ニハ延ヒテ其命令ニ抗シ最前述べタル如キ惡結果ニ陷ルニ至ル右ハ余カ目撃耳聞シタル二三ノ件ヲ舉示スルノミ此他猶多々之レアリト雖モ各位ハ一隅ヲ舉クレハ三隅ヲ反スルノ知識經驗アル人々ナレハ逐一細示スルチ

至ラサリシテ以テ心筋ニ之ヲ憾トセリ故ニ今還タ稿ヲ更ヘ題ヲ新ニシテ少シク卑見ヲ開陳スル所アラントスルモ素ヨリ寡聞淺識ニ加フルニ塵事蜩集ヲ以テシ幾ント播閱考査ノ暇ナク愈々以テ達意ノ文字ヲ成ス能ハス轉タ益々汗額ノ至ニ勝ヘス然リト雖モ此問題ノ緊切ナルチ覺ユルコト近口倍々深クレハ己マント欲シテ得ヘカラス遂ニ自ラ揣ラスシテ再ヒ此大問題ニ筆ヲ弄スルコトナレリ予ノ特ニ希圖スル所ハ自ラ謠ヲ作リテ以テ大方博雅ノ名案卓說ヲ誘起セント欲スルニアルノミ其題名ノ稍々警察ノ範圍ヲ逸スルニ似タルハ事體ノ自ラ然ラシムル所亦己ムチ得サルニ出ツルナリ切ニ乞フ之ヲ諒セラレシコトチ夫レ國家ハ國土ト人民トヨリ成立スルナリ若シ其一チ關ケハ國家ノ形體決シテ全シト謂フヘカラサルナリ故ニ國家ニシテ永ク其生存ヲ保タント欲スレハ常ニ此二者ノ保續ト發達トニ着眼セサルヘカラス是チ

以テカ例之ハ土地ノ生産力ヲ維持セシカ爲メニハ地質ノ改良ヲ怠ルヘカラス季候ノ乾濕宜シキヲ制セント欲スレハ山林ノ繁殖ヲ等閑ニ付スヘカラス人民ニ於テモ亦爾リ若シ一旦其開發繁殖ノ事ヲ忽諸ニスルトキハ恐クハ復ヒ醫救ノ期ナキニ至ルノ患アラソコトヲ抑モ人民ノ賦性ハ容易ニ變改スヘキニアラス體質一旦羸弱トナリ或ハ懶惰放逸ノ惡習ニ染ミ或ハ自主自助ノ氣節ヲ失フコトアラソコトハ之ヲ醫治セソコト實ニ幾世紀ノ業ニ屬スヘシ一朝一夕ニ能ク之ヲ救療スルノ方アルヘカラサルナリ故ニ國家ハ常ニ教育ノ普及ヲ圖リ以テ人民ノ徳性ヲ培養シ衛生ノ道ヲ講以テ健全ナル體質ヲ保排シ經濟上ノ行政ヲ施キ以テ國民ノ富度ヲ増進シ裁判ノ法ヲ立テ以テ社會及個人ノ安全ヲ擔保シ警察ノ設置アリ以テ安寧及秩序ヲ維持シ監獄ノ整備ヲ務メ以テ罪惡ノ根治ヲ期スル等由テ人ノ心身兩性ノ全備ヲ求ムルニ汲々タルナリ今

假リニ人民ノ一大部分貧困窮迫ノ淵ニ沈メリト想像セヨ其結果果シテ如何ソヤ之ヲ思ヘハ自ラ悚然タルヲ免カレサルナリ
貧窮トハ要スルニ衣食住ニ乏シキヲ謂フナリ故ニ貧窮ノ人ハ身體ノ保護營養ヲ全フスルコト能ハス父母ノ身體營養ヲ欠キ由テ健康全キコトヲ得サレハ其子孫ハ嘗ニ幼時ニ於テ發育不全ノ患アルノミナラス尙且父母ノ羸病ヲモ自ラ傳染スルヲ免カレサルナリ若シ實ニ此推想ヲシテ誤謬ナカラシメンニハ一人ノ羸病者ハ果シテ其害毒ヲ幾千人ニ及ホスヘキヤ恐クハ子々孫々ニ至ルマテ多少其弊ヲ貽サソソハアラサルナラソソ管ニ身體上ノ遺傳ノミナラス精神上ノ遺傳モ亦實地之ナキコトヲ得サルカ如シ(遺傳トハ最近ノ學說ニ據レハ要スルニ接觸ニ由テ傳染スルノ謂ナルニ似タリ今暫ク舊來ノ用語ニ從フ)人ノ斯世ニ處シテ能ク自主自助ノ性ヲ全フシ由テ他人ノ助力ニ依頼

スルコトヲ爲サ、ルハ職トシテ自重競争ノ意思存スルヲ以テナリ然ルニ幼時ヨリ獨立ノ道ヲ得スシテ己レノ生存ヲ純ラ他人ノ助力ニ仰グノ習慣ヲ成ス時ハ必衛自ラ卑屈トナリ他人ニ依頼シ他人ノ恩惠ヲ受クルヲ毫モ恥辱ト念ハサルニ至ルナリ是レ習性トナレバナリ一旦屈辱ヲ甘受スルノ習慣ヲ馴致スル時ハ容易ニ本然ノ獨立自主心ヲ煥發スヘカラス幼時家庭教育ノ重要ナルコト實ニ繫リテ此ニアリ父母ニシテ廉恥ノ心ナク他人ノ助力ヲ仰キテ自ラ得タリトナスカ如キ汚習アル時ハ其子女モ亦自ラ此ノ如キ心性ヲ稟得シ躬ラ力メテ衣食ヲ資スルナトノ念ヲ生セス卻テ他人ニ依頼シテ其扶助ヲ借ルコトヲ少シモ異マサルニ至リ自主自助ノ氣節ハ終ニ痕跡ヲモ留メサルコトナルヘシ國家ノ爲メ又社會ノ爲メニ恐ルヘキノ至ナリ試ニ想ヘ國家ハ一個人ノ集合体ナリ故ニ自力自食ノ能ナク且不屈獨立ノ心ヲ闕如スル所ノ一個人夥

多ニシテ國家ノ一大部分ヲ占ムル時ハ宛カモ國家ハ幾分力獨立ヲ失ヒタルカ如キナリ夫レ然リ是ニ於テカ國家ノ幼者ニ強制ヲ加ヘテナリトモ教育ヲ與ヘサルヘカラサルノ必要ヲ生シ壯者ニハ産業ヲ授ケテ以テ自活ノ道ニ習ハシムルコトヲ緊急トスルナリ然ルト雖モ夫ノ眼前糊口ノ途ヲ得スシテ既ニ饑寒ノ窮巷ニ彷徨スルカ如キ貧民ニ至リテハ復タ此ノ如キ緩手段ニ由ラシムヘカラサルナリ國家ハ須ク片時ノ猶豫モナク之ニ必要ノ救助ヲ付與セサルヘカラサルナリ其故ハ原來國家ノ貧民救濟ヲ圖ルヤ寧ロ他人ノ爲メナルニアラス乃チ自己ノ利益ノ爲メニスルナリ國家ヲ構成スルノ原素ハ一個人ニ外ナラス細胞滅シテ其組織完キコトヲ得ルノ理ナシ豈然ラスヤ
茲ニ一難問アリ國家ニ於テ明ニ濟貧救濟ノ法ヲ立ツレハ之カ爲メニ國民ヲ遊惰ニ誘フノ憂ナキヤ國家ニ於テ一旦此ノ如キ義務アルコトヲ承認スレハ其底止

スル所ヲ知ルヘカラサルノ虞ナキヤ眞ニ救済ヲ要スル所ノ必迫ナル窮民ヲ判別量定スヘキ正確ノ權衡アリヤ國家ノ其營養ヲ計ラントスル所以ノモノハ偶々以テ己レヲ損傷スルニ足ルノ惡果ヲ結フコトナキヤ此ハ是レ實ニ容易ナル問題ニアラス然レトモ要スルニ實際救済ヲ得サレハ性命ニ關スル場合ニ限リテ公費ノ救助ヲ必要トスヘシト言フニ至リテハ確乎不拔ノ原則トナスヘキカ如シ公費ノ救助ヲ全廢スヘシトハ吾人温血ヲ蓄有スル所ノ人類ノ口ヨリ決シテ言フニ忍ヒサルナリ冬ハ爐邊ニ安座シテ暖ヲ幾杯ノ葡萄酒ニ取り夏ハ水上ノ樓ニ倚リテ涼ヲ一罇ノ冷麥酒ニ買フカ如キ錦衣玉食者流ニシテ始メテ能ク此ノ如キ議論モアルヘケレ現ニ貧民ノ状態ヲ目撃シテ飢饉旦夕ニ迫ルノ景況ヲ視聽シテ仍且惻怛ノ情ヲ發セサルモノアラフヤ若シ偶々濟貧ノ事ニ慊焉タラサル者アラハ乞フ一タヒ去リテ窮民ノ生活ヲ實驗セヨ庶幾ク

ハ思半ニ過クルコトアラフ
 濟貧ノ業ハ猶猛烈ナル藥物ノ如シ若シ其用法宜シキヲ得レハ國家ヲ利シ社會ヲ益スルコト洵ニ顯著ナルヘシト雖モ一旦其方ヲ誤リテ之ヲ濫用スル時ハ其害ヤ蓋シ測ルヘカラサルモノアラフ是レ夫ノ錦衣玉食者流ノ時ニ或ハ口ニ籍キテ以テ濟貧事業ノ全体ヲ攻撃スルノ好材料トナス所ナリ設合ヒ濫用ノ弊害ハ少小ナラストスルモ之カタメニ其事ノ全体ヲ直ニ非難スルカ如キハ未タ至ラサルノ議論ト謂ハサルヘカラス救済ノ必要ノ程度ヲ量定センコト固ヨリ一難事ナリトス予モ亦一定ノ精密巧緻ナル權衡アルヲ知ラサルナリ然リト雖モ市町村ニハ何々吏員ノアルアリ之ニ其事ヲ委任シテ將タ何ノ不可カアラフ故ニ予ハ今ニ於テ逆メ此枝葉ニ涉ルノ議論ヲ喋々スヘキ必要ヲ認メサルナリ
 救助ノ主眼ハ常ニ必ス必要ノ二字ノ上ニアルヘシ必

要ノ存スル場合コアラスシテ救助ヲ行フヘカラス必要ノ事柄ノ外ニ救助ヲ及ホスヘカラス獨逸國ノ立法ハ宿舍ト關如スヘカラサル生活必需品ト病者ニ必要ナル看護ト死者ニ相當ナル埋葬トヲ公費ヲ以テ付與スルコトト規定セリ所謂生活必需品ノ中ニ公食物ノ外被服、煖温、住居等總シテ人ノ生存ニ必需ナル諸事物ヲ包含スルコトナセリ此規定洵ニ當テ得タルカ如シ如何トナレハ生活ノ必需品ハ蓋シ此外ニ出テサレハナリ（我國ニ於テハ通常煖温ヲ必要トスルコトナシ）蓋シ救助ヲ要スヘキ眞ノ窮民トハ例之ハ疾病ニ由リテ一時勞働ヲ事トスヘカラス或ハ物價暴騰賃錢低落ノ爲メニ一家數口ノ衣食ヲ支フルコト能ハス由リテ漸次動產不動産ノ資本ヲ失ヒ設合ヒ如何ナル勞働ニナリトモ從事セント欲スルモ一時絶テ其方ヲ得スシテ自己又ハ自己及家族ノ糊口ニ窮シ生命ヲ危フスル者ヲ謂フナルヘシ夫ノ勞働ヲ嫌惡シテ自ラ力作

スルコトヲ爲サハルカ如キ者ハ予之ヲ陋民ト號シ以テ貧民ト區別セルナリ此陋民ニ處スルノ道ハ別ニ自ラ之アルヘシ然レトモ是ハ別問題トシテ今茲ニハ之ニ論及スルコトヲナサハルナリ
 又獨逸ノ濟貧法ハ救助ヲ行フ爲メニ貧院或ハ病院ニ入レ又ハ体力ニ相應スル作業ヲ院內或ハ院外ニ於テ執ラシムルコトヲ認許セリ今此規定ニ關シテハ左ノ如キ大臣ノ訓令アリ曰ク濟貧組合（前稿ニ詳ナリ）ハ適當ノ場合ニ限リテ此權利（即チ貧院ニ入レ作業ヲ執ラシムヘキコト）ヲ適用スヘシ公費ノ濟貧事業ハ必要ナル嚴格ヲ保ツノ外（嚴格ヲラサレハ實驗上貧民ノ風俗頹敗ヲ將來スヘシ）亦一々ノ場合ヲ參酌シテ慈善ノ趣旨ヲモ失フヘカラス故ニ後來ト雖モ現金食品及燃料ヲ以テスル救助ニ代フルニ公設ノ貧院等ニ收容スルコトヲ以テスルヲ終始必スシモ服膺スヘキ定則トハナスヘカラス管タ將ニ各場合ニ由リ如何ナル方法ヲ以テ最適當ニシテ且又

方ノ趣旨ニ適合スルモノトナスヤチ過ル所ナク商量スヘキノミト

上文ノ趣旨チ敷衍スレハ約キ此ノ如クナルヘシ曰ク眞ノ貧窮者ニハ必要ナル衣食住ノ救助チ與フヘキモ左リトテハ決シテ之ヲ濫リニスヘカラス又被救助者ノ自恣チ容赦スヘカラス當局者ノ認定ニ由リテ或ハ之ニ金品チ付與シ或ハ之ヲ貧院若クハ病院ニ入レ時宜ニ由レハ相當ノ工役ニ就カシムヘシ尤モ行政上ノ處分チ以テ本人ノ意ニ反シテ之ヲ貧院ニ收容又ハ流留シ又ハ之ヲシテ就役セシムルコトアルヘカラス之ヲ貧院ニ入レ置クハ救助チ必要トスル時間ニ限ルヘシ此等ノ處分ニ對シテ不服ノ者ハ或ハ全ク救助チ受クルコトヲ斷念スルカ或ハ甘ンシテ指定ノ方法ニ由ルノ外アルヘカラス結局被救助者ニハ自恣チ容ルサ、ルナリ專ラ當局者ノ認定ニ從テ役業ニ堪フヘキノトスレハ之ヲ就役セシメ以テ遊手座食ノ弊チ斷然杜塞

スヘキモノナリ被救助者ト雖モ若シ處分チ不當トスルトキハ訴願チ提起スルコトヲ得ヘシ又被救助者ノ所行ニ不都合アルトキハ刑法第三百六十一條第五第七第八項及第三百六十二條ニ據リテ處分チ求ムルコトアルヘシト刑法ノ當該條項ハ左ノ如シ

(第三百六十一條摘要) 左ノ所爲アル者ハ拘留ニ處ス

(第五) 遊戯(博奕) 飲酒或ハ放逸ニ耽リ爲メニ自身或ヘ其之ヲ養育スヘキ義務アル所ノ者カ官府ノ介助ニ由リテ他ノ救助チ要セサルヘカラサル有様ニ陷リタル者(第七) 公費ノ救助チ受ケテ而シテ勞チ嫌フカ爲メニ官府ヨリ命セラレタル其体力ニ相當スル作業チ拒ミテナサ、ル者(第八) 從來ノ住所チ失ヒタル後所管ノ官府ヨリ其盡力ニ拘ラズ之ヲ能クセサリシ旨チ證明シ得サル者

(第三百六十二條) 第三百六十一條第三乃至第八項

ノ規定ニ據リテ處刑セラレタル者ハ監獄内ニ於テ及他ノ自由ナル工人ト隔離シ得ラル、限りハ亦タ監獄外ニ於テ其性能及關係ニ相當スル作業ニ服セシムルコトヲ得」拘留チ宣告スルニ方リテハ同時ニ處刑者チ刑ノ執行濟ノ後地方警察官司ニ引渡スヘキ旨ヲ宣告スルコトヲ得地方警察官司ハ之ニ由リテ此宣告チ受ケタル者チ或ハ二年以内工役場(授産院トモ譯スヘシ)ニ入レ或ハ公益ノ工事ニ使役スルコトノ權利チ得云々乞丐ハ獨逸刑法ニ於テ違警罪トシテ罰スヘキ所爲トナセリ而シテ設合ヒ困窮ナレハトデ之チ口實トシテ其罪チ免カル、コト能ハサルナリ然リト雖モ眞ニ饑渴ニ迫ルヘキ窮迫ノ状態ニアル時ハ特ニ無罪トスルコトヲ得ルノ規定アリ是レ實ニ已ムチ得サル適當ノ例外規定ト謂フヘシ

抑モ人世ニハ不幸ト稱スル忌ムヘク恐ルヘリ而カモ何人ト雖モ決シテ免カル、コト能ハサルヘキ一事アリ

誰カ此不幸ニ遭遇シテ貧困窮乏ノ苦境ニ陥ラサルチ保センヤ人身ハ有機体ナリ何時罹病負傷ノ災厄ナシト言フヘケンヤ果シテ世間此ノ如キ事實アリトスレハ如何ニ勤勉ナル者モ不幸ノ爲メニ糊口ニ窮スルコトナシト斷定スヘカラサルヘシ然ラハ窮乏者ナリトテ悉ク責ムヘク惡ムヘキ情民ノミトハ謂フヘカラサルナリ若シ一方ニ於テハ乞丐ノ事チ禁シ他方ニ於テハ此不幸者チ救濟スルコトヲ爲サ、レハ取リモ直サス座シテ飢チ待テト説クニ近カラスヤ原來情民ナリトテ國家ノ分子タルチ失ハサルナリ而ルチ況ンヤ不幸ニ遭遇セル良民オヤ之チ亡フハ國家自ラ其手足ノ折傷スルニ異ナラサルナリ若シ國家ニ於テ人ノ餓死スルチ放擲シテ可ナリト云フチ得ヘクンハ刑法ニ墮胎ナドチ罰スルノ規定アルヲ要セサルヘキナリ以テ知ルヘシ極貧餓死ニ迫ル者チ救助セサルヘカラサルコト然ラハ決然タル濟貧ノ法チ設ケサルコト國家ノ爲メニ

計リテ決シテ得策ナラサルナリ瘋癲白痴者又ハ瘡癩者ノ如キモ亦タ同シク放擲シオクヘキニアラサルナリ須ク相當ノ保護ヲ加ヘ以テ國家自衛ノ道ヲ講スヘキナリ國家ハ單ニ自ラ利スルノ故ヲ以テスルノミナラス亦タ道義ノ爲メニモ不幸者ヲ救濟セサルヘカラスルナリ是レ國家ノ國家タル所以又人ノ萬物ノ靈タル所以ナリ(道義トハ人ノ人タル道ヲ謂フナリ)

社會ハ現ニ長足ノ歩ヲ以テ進化シツ、アルナリ然ルニ社會ノ秩序ハ人民ノ分業法ト正比例ヲ爲シ分業法ハ貧富ノ懸隔ト併行スルモノ、如シ苟モ社會ノ秩序ニシテ退却セサルニ於テハ如今倍々貧富ノ差ノ増大スルヲ沮遏スヘカラサルヘシ然ラハ將來貧民救濟ノ必要モ念々増加スルノ一方ニ傾クモノト覺悟セサルヘカラサルナリ

歐米諸國モ夙トニ此厄運ニ接シ貧者ハ愈々貧スルノ勢ヲ挽回スルヲ能ハサルニ由リ漸次各種ノ救濟法ヲ

慈善者ノ私金ヲ以テスル救助ノ事業ハ固ヨリ其及フ所ノ區域ニ限りアリ故ニ完全ナルモノトハ謂フヘカラサレトモ亦タ他ニ優ルノ長所アリ他ナシ公費ノ救助ハ法律ニ由リテ受クヘキ者ノ權利トナシ國家又ハ公然ノ團體ハ一定ノ場合ニ於テ必ス救助ヲ施ササルヘカラスルノ義務アルナレハ貧民ハ未タ饑餓ノ窮境ニ迫ルノ極ニ至ラサルニ巧ミニ外觀ヲ裝ヒテ其狀ヲ呈シ以テ自身ニ活路ニ奔走スルノ勞ヲ免カレント欲スルヲアリ公費ノ救助ナル後楯アルニ依頼シテ己レノ力ニ應スル限りノ勞動ヲ尽シテ百方饑餓ノ難ヲ免カル、トチチナサスシテ輒チ救助ヲ請求スルヲアリ此弊ヤ容易ニ除クヘカラス否決シテ全滅スヘカラスルナリ之ニ反シテ私人ノ救助ハ其源泉ニ限りアリ故ニ如何ナル貧民ト雖モ之ヲ受クルヲ必スヘカラス救助ノ望必スヘカラスレハ之ニ依頼スルノ心モ堅カルヘカラス即チ貧民ノ心ニ油斷ノ起ルヘキ隙アラサ

按出シ現今ニ至リテハ貧民ノ爲メニスル設置及事業殆ント枚擧スルニ遑アラサルナリ其最モ顯著ナルモノチ數アレハ授産院アリ貧民病院アリ妊婦ノ産院アリ幼兒保育院アリ捨子養育院アリ幼童學校アリ感化院アリ癲狂院アリ貧民庖廚ト稱スルモノアリ肉羹汁場ト稱スルモノアリ慈善會ヲ開クアリ筵ヲ設ケテ貧民ニ酒食セシムルヲアリ此外ニ國家ノ設置タル廢病院等ノ如キアリ要スルニ富有者ノ貧民ノ爲メニ盡クス所實ニ至レリト謂フヘシ然リト雖モ此等慈善者ノ諸設置等ハ概チ其區域ニ限りアリ故ニ全國ノ貧民ヲ通シテ一体ニ之ニ均霑セシムルヲ能ハサルノ憾アリ眞ニ貧民救濟ノ目的ヲ全フスルハ結局公費ヲ以テスル所謂濟貧組合ノ制ニ過クルナキナリ獨逸ノ該制度ハ既ニ前稿ニ於テ畧々其要領ヲ説ケリ故ニ今復々之ヲ詳言スルノ要ナクレハ茲ニハ一ニ其我國ニモ緊急歎クヘカラスル所以ヲ論スルニ止ムヘシ

ルナリ是ヲ以テ貧民ハ一日モ安キ心ナク不斷心身ノ繼カン限りハ勞動ヲ怠ラサルナルヘシ之ヲ私人救助ノ長所ナリトス然レトモ他ノ一方ヨリ觀察スレハ設令ヒ眞ニ救助ヲ要スル必迫ノ場合アリトモ或ハ救助ノ途ヲ絶シテ爲メニ不幸者ヲシテ貴重ノ生命ヲ殞セシムヘキ憂アレハ同時ニ之ヲ其短所トモ謂ハサルヘカラサルナリ

凡ソ天下ノ事一トシテ利害ノ相伴ハサルハナシ唯チ比較的ニ其大小ヲ判断シテ或ハ利トシ或ハ害トスルノミ既ニ公費ノ救助ニモ利害アリ私人ノ救助モニ利害アリトスレハ宜シキニ從テ此二者ヲ調合スルノ外アルヘカラス卑見ヲ以テスレハ私人ノ救助ト公費ノ救助トハ兩ラ之ヲ取ルヘキナリ先ツ私人ノ慈善心ト財囊トノ繼カン限りハ成ルヘク之ニ救助ノ事ヲ委テ私人救助ノ源泉涸渴シタル上ハ眞ニ必迫ノ窮民ニ限リテ公費ノ救助ヲ付與スルヲトナスヘシ而シテ其方

法ハ大小幾階級ノ救助組合ヲ設ケ救助ノ義務ハ順次下ヨリ上ニ及フノ制ヲ採用スルニアリ但シ公費ノ救助法ヲ設定センニハ之ニ缺クヘカラサル所ノ條件アリ漫ニ救助ヲ與フルコトナク救助ノ費用ハ受救者ヲシテ辨償セシムルヲ定メトナスコト是レナリ即チ救助ハ單純ナルヘカラス必ス條件付ナルコトヲ要スヘシ是レ前記ノ如キ弊害ヲ匡正スルノ最良方便ナリ如何トナレハ設合ヒ一タヒハ救助ヲ受クルモ後日之ニ報ユヘキ勞働ノ義務ヲランニハ同シク勞働スルニモ他人ノ檢束ヲ蒙ランヨリハ寧ロ自由ニ己レノ欲スル所ニ從テ勞働センヲ望ムコト人ノ常情ナレハ疾患等ノ故ニ一時真ニ他人ノ扶助ヲ仰ガサレハ活路ヲ索ムヘカラサルカ如キ必迫ノ窮民ノ外ハ強ク公費ノ救助ヲ請求セサルヘケレハナリ是ハ獨國ヨリモ一步ヲ進メタル嚴法ナリ實際果シテ行ハルヘキヤ否少シク疑ナキニアラスト雖モ先ツ試ニ之ヲ施行シテ其成績ヲ勘ヘテ可

シテ望ムヘキニアラス漸チ以テ歩ヲ進メテ可ナリ予ノ知ル所ニ由レハ各府縣概チ公立病院ノ設ケナキハナシ然ルニ近年最早之ヲ無用ナリトシテ廢止ノ議ヲ決行シ或ハ決行セントスル所多キカ如シ差當リ此建物ヲ利用シテ少ク改造増築ノ工ヲ加フレハ充分目的ニ適スヘシト思ハル然ラハ創設ノ費用トテモ左迄ノ金額ニアラサルヘク爾後ノ維持費ニ至テハ死亡者ヲ除クノ外多少工役ニ由リテ得ル所アルヘケレハ尙更案外ニ少額ニ止マルモ圖ルヘカラサルナリ

我カ恤救規則ハ十五年前ノ制定ニ係リ(醫令ニ其後改正大體ノ精神ニ至リテハ依然舊ノ如キナリ)爾來地方稅教育費ノ規定出テ且ツ自治制ノ實施ヲモ見ルニ至リタレハ專ラ直接ニ國庫ヨリ恤救ヲ與フルモノト定メソコト少ク權衡ヲ得サルカ如キ感ナキコト能ハス聞クカ如クハ毎年國庫ヨリ恤救規則ニ據リテ支出スル所一萬餘圓ノ多額ニ上ルト故ニ救助ノ事ハ第一着ニ私人ノ慈善心ニ訴ヘ次テ

ナリ此方法ヲ實施センニハ法律ヲ以テ適當ナル區域ノ貧民救助組合ヲ設定シ毎組合或ハ每幾組合ニ授産院ヲ置キ一時救助ヲ必要トスル貧民チ之ニ收容シ體力ニ相應ナル工役ヲ作サシムルコト定メ萬一此工役ヲ拒ム者アラハ之ニ何々ノ罰ヲ科スヘシトノ制裁ヲ付シ且地方ニ貧民救助費ニ充ツヘキ一定ナル各種ノ税金ヲ徴收スヘキ權利ヲ與ヘ以テ組合團體ヲシテ甚シク勞費ヲ要セスシテ其地ノ窮民ヲ扶助スルノ道ヲ得セシメ併セテ貧民チシテ無産無職業頑固不治症ノ陋民ニ變セシムルコト防クヘシ是レ國家ノ爲メニ大利アルニアラスヤ加之一舉ニノ兩得ノ手段ナラスヤ

授産院ハ差向キ各府縣ニ一ヶ所ツ、設置シテ可ナリト思惟ス猶ホ之ニ病院癲狂院及學校ヲ付設スレハ信ニ妙ナルヘシ逐テハ每郡每市町村ニ一ヶ所ツ、設クルコトモナスヘケレトモ全功ヲ一時ニ收メソコトハ決

各自治區チシテ相當ノ義務ヲ負ハシメ其力ニ應セサル上ハ府縣チシテ之ヲ援助セシメ最後ニ國庫ヨリモ相當ノ補助ヲ府縣ニ與フルコトスレハ此一萬餘金ハ必ス今日ニ幾倍スル活用ヲ顯ハスニ至ルヘシト信スルナリ郵救規則ノ外ニ仍ホ備荒貯蓄法ニ據リテ救助ヲ與フルノ途アリト雖モ是ハ純ラ災害ニ源因スル不幸者ノ外ニ出テサレハ一般ノ貧民救濟トハ關係ナキモノナリ故ニ問題外トス從來無告ノ窮民アレハ先ツ郵救規則ニ據リテ處分シ若シ同則ニ適合セサルトキハ始メテ地方稅ノ教育費ニ依ル慣例アリト方聞ケリ既ニ郵救規則ニ於テモ濟貧郵救ハ人民相互ノ義務ナルコト承認セリ而シテ此義務チハ人民一個人ヨリ一躍シテ國家ニ歸シ其中間ノ諸團體休テ順序ノ外ニ措キタルナリ是レ果シテ其當チ得タルモノナルカ

以上圖ラズモ無用ノ言ヲ冗長ニ書キ列テ恐縮ノ至ニ堪ヘス予ノ希圖ノ大趣意ハ授産院トカ工役場トカ稱

スヘキ貧民ヲ收容シテ之ヲ救助シツ、同時ニ産業ニ就キテ將來自活ノ便ヲ得セシムヘキ場所ヲ公立トシテ設置スルニアリ望ラクハ大方ノ賛助ヲ得テ近キニ其實施ヲ見ルニ至ランコトヲ敢テ卑見ノ大畧ヲ開陳シテ世ノ識者ニ問フ但シ勿卒ノ際ノ起稿ニ係レハ前後關聯ヲ缺ク所ナキヲ保セス幸ニ微衷ヲ憫ミテ判讀ヲ賜ヘト云爾

典獄諸君の歸任を送る

小川 滋 次郎

監獄事業の近代に於ける萬國競争的事業の一に屬し苟くも伍を文明世界に共にせざるの國の何れも皆な争つて獄事の改良進歩を努むることに汲々たらざるの事し西儒曰く獄制を觀て以て其國の文野を卜すべしと獄制の整否如何の體面に關する甚小に非らざること知るべきなり我が政府も亦た夙に此に見る所

第一期に於て監獄全体の頭腦たり支配者たる典獄若くは之に代るべき樞局の當務者を召集せられたる旨趣も亦た之を詳るにを得たり蓋し司獄官練習の事は歐洲にありても久しく監獄社會の一問題に屬し一方に之を必要とするものあれば一方には之を駁難して必要なしと主張するものあり議論區々にして暫らく歸着する所あらざりしか萬國監獄會議に於て多數の意見を以て終に其必要を認定し伊太利又の瑞西等も於て既よ之を實行して良好の成績を示し獨逸に於て一の専門學科として之を大學の學課に採用したるより以來幾んど亦た練習所設置の事に就て異論を唱ふるものあるを見ざるに至れり今や我が國も於て監獄練習所を設立したるの一事ハ非常に歐米監獄社會の注意を惹き起せざることなるべく其成績の如何は治獄家の一日も早く知らんと翹望しつゝあることあるべきなり予輩の信す諸君の能く練習所設立に關

あり曩きに新刑法を發布するに際し先づ其執行に關する規程即ち監獄則の如きも泰西文明各國の獄制に則つて大に之を改正し且つ其實際の運用法等に至つても機に應じて間隙なく恰當の措置を施すことに解るなきにも係はらず尙ほ此を以て足れりとせず常に銳意して改良事業の實績を擧ぐるの點に着目し殊に昨年より本年に掛けては我が監獄歴史の中に特筆大書すべき三事業を斷行せり三事業とい何ぞや曰く監獄則改正獄務顧問招聘及び監獄官練習所設置の事即ち是れなり其用意の周密懇切なる實に至れり盡せりと謂ふべし獄事の改良進歩ハ斯くの如くにして始めて大ニ刮目して見るべきものありと信す予輩豈に諸君と共に斯道の爲めに油々たる前途の好企望を祝せざるを得んや

我が内務大臣閣下か監獄官練習所を新設せられたるの旨趣ハ既に警保局長の演說に據て之を了せり先づする内務大臣の旨義を遵奉し日も亦た足らざるの意氣込を以て非常に精勵刻苦せられたるを信す多少の歳月を費したる後には顯著ある改良進歩の好成绩を取むるの必然なるを確信す此確信よして若し果して將來の實際に的中するものありとすれば練習所設置の目的を全ふせられたるの榮譽は終に諸君の有に歸すべきなり

二個月即ち六十日間の學期ハ端なく此に經過して殘るの唯た諸君か諸君の代理者たる彼の斯道の達人と聞へし白髮の老典獄をして朗讀せしめたる内務大臣の告辭に答ふる一片の誓紙のみとありぬ或は曰く學期短きに失したるか爲めに諸君をして親しく治獄法の全体に涉つて研修せしむること能はざりしを惜むと予輩以て然らずとかし諸君は既に治獄主義目的を詳悉し其管理法の如きも多年の經驗を以て自ら弘通する所あり殊に所謂一を聞て十を知る敏達の能士な

るを以て二個月の時日の講義に質疑に諸君をして治獄の要訣を會得せしむるには既に十分餘りある程の材料を與へたることなりと信す獨り予輩の諸君に望む所のもの今日は何論將來とても監獄事業の日進改良的の事業あることを銘記せられ完全の上よも完全を計り汝々汲々として常に改良の方針に向つて其針路を取り造次利那も敢て或は休止することなきにあり休止するの時は即ち退歩するの時あるを覺悟せざるへからず、監獄事業の萬國競争の事業あることハ諸君の既ニ熟知せらるゝ所なり然らば則ち諸君は大に其眼界を廣くして常に歐米各國に於ける斯の事業の發々として改良進歩する實況を詳かにし我をして彼れに後るるの如き不名譽なからしむべきは勿論一步も彼れを凌駕するの名譽を博するに至らしめんとんばある可らず彼の諸君の記念物として永く監獄官練習所(若くは内務大臣閣下の)の寶庫ニ藏置せらる

○監獄の本旨

文學士 久米金彌述

「昨ハ以て群を止め、刑ハ刑なきを期す」、とは刑制の極意を表示したるの言なり、監獄ハ其の初めに當りては纔かに刑制の附隨物として發生せ、漸く成育開達し、遂に今日に在りてハ刑制の主腦となれるものなり、是れ故に刑制に於て若し刑制の消失を期せるものとせば、監獄も亦監獄の廢滅を以て究極の目的となし、而して監獄を開くハ則ち監獄を閉つる所以たらざるへからざるあり

吾人が刑制に關して常に期望する所ハ正さに彼れか如く、而して監獄に向つて要求する所は正さに斯の如し、然るに往古以來、社會の呈露したる状態と、人類の發現したる行跡とハ俱に吾人の此の期望と要求とを否拒するもの、如く夫の人を殺し、物を盜むの惡慝は社會の愈よ上進すると共に益す増嵩する

へき一片の答辭をして粲然たる光輝を放たしむるの日ハ果して何れの日を我か大日本帝國をして宇内に於ける完善完美なる獄制の模範國たる名譽を得せしむる日ハ果して何れの日ヲ予輩常に斯道の有志を戒めて言へることあり日本帝國をして獄制の模範國たらしめざる間は決して萬國監獄歴史を編む勿れと史生をして筆を下さしむる日は果して何れの日ヲ、前途悠悠望滿々責任の重大ある代りには前途の冀望も亦た頗る大あり諸君豈に石田に種を下すと同日の論やらんや請ふ國家の爲めに自重自愛せよ聊か一言を述へて親愛ある諸君を送るの辭に代ふ

監獄の歴史を著すは、吾人の責任を重くするに在りて、

吾人の責任を重くするに在りて、

もの、如し、然れども犯罪の増加ハ社會の上進と正比例を爲すものなりや、否や、吾人は今爰よ之れを明言するを得すと雖ども、然れども凡を期望の高遠なるものは、其の充足の遲きは亦數の免かれざる所あるのみならず、犯罪の滅絶を期し、刑制の消失を望むか如きと、殆んど百年河清を俟つと同一轍に歸せざるなきかを疑はしめ、而して彼の惡を未だ萌さざるに絶ち、教を微眇に起し、民をして善に遷り、罪に遠かりて、而して自から知らざらしむるか如きハ、「ユウトピア」的の空望に属し、詩家、哲學者等か幻想したる黃金時代又到達するに非らずんば、吾人の見ること能はざるものたらんとす、果して然らば吾人の宜しく吾人の期望を緩和し、而して刑制の消失を期するの如き念慮は全く之れを拋棄し、以て犯罪の防制に従事せざるべからず、今日の刑制か主として犯罪の防制を目的となすハ理勢、已むを得ざ

るに出て、然かも尙は其の正鵠を失せざるものと云ふへからざるあり

雜報

○海水浴場取締 逐々暑さの時候にもなりたれば豫め其向々の御注意を仰さかく次第は海水浴場の取締法を施行あらまほしき一議なり余輩客年盛夏の際相州海邊の地は遊び昨年ハ房州に在て數週間海水浴を試みたり然るに第一入浴地域に制限なく人々隨意に何れの地に於ても入浴し第二何れの場所も清潔ならず汚物危険物四邊に散亂し時としてハ磁器硝子器等の破片の爲めに足を傷け鳥獸の死屍の爲めに嘔氣を發するとある等随分浴客の迷惑掛からざるなり由て余輩の希望する所は多人數の遊浴ある地にハ安寧上と衛生上との利害に省み精神に不快の感を與へす身體に危険なく且健康に宜しく區域を限りて遊泳の場と定め警官の巡回を頻繁にし以て浴客を保護あらま

ほしきとにこそ土地によりては岩礁に觸れ浪潮に誘はるゝ等の危険もあり漁村の兒童群り來りて婦女子は惡戯を加ふることもあり又浴客輻湊すれば需要品の價格を法外に昂騰せしむるの弊習も絶てなきにあらざるか如此物價暴騰の弊は温泉場に於ても時に或は目撃するとあれども大槩温泉場は舊來の經驗に富みたる營業者少あからされれば流石に無鈍砲乃仕打あると稀れかりしかるに海水浴場に至てハ所謂客慣れざる商估のみ多けれハ前後の分別なく人の荒肝を抜くと屢々なり既ハ温泉場多き地方に於ては其取締法を制定せられたる向も少なからされハ海水浴の繁昌する地方に在ても同じく其取締方を設けられたし歐洲諸國の海水浴場に於てハ浴場の境域内に於て嚴重なる法を布き殊に不潔及び危険の害なき様注意ありと聞く此外に風俗上に於ても議論なきにあらされども到底今日ハ實行すべき望あらされハ暫く口を緘して他日を俟つ

○警察巡回 本年警察の巡回期の將に終を告げんとす警部長諸氏は日夜奔走巡回の途に在るなるへし毎年巡回を四月五月の交に於て爲し終るもの少なふして五月六月に跨るもの多きか如し勿論事務の都合其の他事故の爲めに延引して四月中に發程することを得す五月に至り漸く巡回ハ着手する等にて自然六月に跨るものならんか尤も巡回ハ速に爲し得さへすれハ可あぞといふ次第にもあらされハ徒ハ拙速を貴ふの行爲なく充分完備なる巡回を爲されんと希望の至に堪へす今日迄既に巡回を終へ其報告さへ差出したる向も二三縣あるやに聞けり報告の速に出るハ其の節に於ても至極便利あることあらん是迄ハ随分遅く報告する向もあるよしなりしか本年ハ充分に注意ありてこれ等の不都合なきよふに取計ハをたきものなり

るものかれは巡查の之に對し欠禮するハ謂はれなきとならん山間僻邑は兎に角に東京市中の如き外國人も多く徘徊するとなれば餘程注意して婦女子に對するも男子に對するも差異あるとなく規定の禮式は施され決て外國人の怪を惹くか如き舉動をからんと希望して己ます

○禮式 巡查の禮式ハ先年内務省令を定められ各地方一定の事に相成り居るハ疑をなきとなるが禮式を爲すへき巡查に於て之を充分に心得ざるものあり又は心得なから怠りて之を爲さざるものあるを見受るるとも少あからず殊に婦女子に對してハの甚しきを見る婦女子といへども同じく人類對等の待遇を受け居

○巡查の制服 ハダルマ形の小倉織と定められてより其保存方及外觀の善美ならざる等にて随分苦情ある事なるが昨年勅令よて羅紗服を給するを得ることになりしを以て幾分かろの不便を排除せしならんと思考すれども警察の經費ハ常に議會の決定を要することおれは稍ともすればろの制する所となり今以て一般に羅紗を用ゐるに至らず斯くては勅令の効用も未だ見ることを得ざるハ遺憾あり又服制に至ては体裁も惡しく帽の如きの不便少なからずこれも相當なる製法に改められ巡查諸氏の便利を謀らむたら然るへしと思考すれども聞く所によれば是れも地方經濟に關する義に付容易には改正せられましの事なり

別に賞罰法なきを以て之か行状を視察するに更に必要なきか如き感想なき能はざるも決して然らず刑事被告人は悉く無罪放免とある者のみならず一朝裁判を経るとき囚人とある者甚からず已に囚人とあるに最も必要あり殊に其拘置監に在りし間の行状如何を知るの場合にあつては其経過せし既往の日數の賞與勘査期に算入するを以て拘置監に在る間と雖行状を視察し置くに極めて必要あり其他檢束上等にも行状の勘査を要すること甚からざるなり然るは刑事被告人に賞罰法なきを以て其行状を勘査するは必要なしとて之か行状録をも調製せざると云ふに至りては謬見も亦甚たしと云はざるを得ず已に監獄則施行細則第十三條に在る監人の行状を録すへき明文あるに依り如此誤解の生ずへき筈なきと雖尚は刑事被告人の行状視察への度を外に置く人なき能はず司獄の局に當る者の最も注意をへき事なり聊か婆心を添ふこと爾り

○警察賞與規則に就て 警察賞與規則と褒章條例とは全く別物にして毫も關聯するところなく其の賞與上の性質も相異なる所あるに明白なる次第あり然るに此區分をも明りて混同の見解を下す人も少からざるや

よて或の實際感を取らるゝ人もなきにしもあらず元來警察賞與の徳義上の關係より専ら勞力上の報酬といふへき性質を含有し褒章條例の方へ全く之れを反し勞力の關係へ更にかくして單純は徳義の表旗たるべきものなり故に人命救助の場合も褒章條例に據て褒章を賜ふと、なれり然るを人命救助の場合に於て其事の難易に依り或の褒章條例或の警察賞與規則と各賞譽の性質を異にするものと考按を下すものあるに不都合なる次第ならずや褒章條例の自己の危難を顧みず人命を救助し云々とあり故に褒章條例の支配する所の危難を顧みざるべきに限り危難といふべき程の事なき場合に於ては褒章條例の支配を受くるを得ず警察賞與規則第四條の水火災其他犯罪に關せざる云々とあるを以て此中には褒章條例の支配外に在る人命救助を含蓄せりとして論評する人あれども人命救助は徳義上に關し警察上即ち勞力上に關する者どうの性質既に異なれは是を以て混同するに誤れりと謂へし要之人命救助の事人類相互の義務に屬し敢て政府の關涉賞譽を受くるを要せざるべきものなれば褒章條例に規定されたるも無益の様かれども特に拔群ある行爲即ち自己の性命の危険なるも顧

みすして他人の性命を救援するか如き宜しく表旗して徳義の奨勵とするに亦可あり普通の義務を尽したる者即ち危險を冒かすことなく人類相互の義務を尽したる者と勞力的賞譽を以て賞譽するは決して謂はれなきことあるべし警察賞與規則中に第十三條第四項即巡查の賞譽規程中に在るのみにしてその他に人命救助に關する條項なし否條項なきのみならず賞譽規則中には含蓄せず故に地方に於て一般人民の人命救助者を賞譽する場合に於ては警察賞與規則を以て賞譽するとなき褒章條例の範圍内に於てすると勿論ありと思考す

非とし斷乎として動かさるの識見あり舉止極めて活潑勇敢あるも頗る慈善心に富み人の窮迫を見れば財を投して之を救濟せんとするの氣風ありて稍々俠任の風を帯へり

幼時藩の西塾に入り藩士宮崎重賢等に就き讀書習字を學び後鹿山學校に入り小學の科程を習得す、又水練を舊藩士笹沼八郎に受けろの秘術を窮む、柔術は舊藩士笹沼八郎に受けろの秘術を窮む、流の目錄を許され佐野島西村等の諸氏と相伯仲し戸塚の四天王と稱せらる劍術は藩士夏見又之進及夏見殿に就き習練せり

明治十五年十一月初めて千葉縣巡查を拜命し十八年四月看守に轉し二十年九月再び巡查となり其十二月佐倉警察署在勤を命せられ廿三年四月八日職に斃る

○故鈴木清助氏の履歴 に付前號に於て之を本欄へ掲載すへしと記し置きたり依て今其概略を左に列叙し併て前號に漏せし捕賊の實狀並に病中の眞況を書き顯し以て同查官の名譽を奨揚せんと欲す

君に關する異聞奇蹟も多き中に明治十四年の夏東京日本橋區濱町河岸に水泳場を開設し子弟を教授せし事あり毎日通ひ來る生徒の數は凡る三百名位もありしと一日教授の際或學校の書生にて游泳練習の際誤て激浪に撃れ將に溺れなんとするを見るや君一身の危きをも顧みず逆巻浪を蹴抜き難なく

鈴木清助の萬延元年四月下總國佐倉城下に生る其父は鈴木羽右衛門と稱し氏の第四子なり明治七年八月出て、佐藤音次の養嗣となり佐藤氏を冒す後十七年の五月に至り生家より復歸し又鈴木を稱す、性質正直淡泊にして外觀を修飾せず居常沈黙にして人と論議するを好まず然れども是を是とし非を

や君一身の危きをも顧みず逆巻浪を蹴抜き難なく

之を救助せしとあり又嘗て舟子の錨を深淵に墮し引揚の術なく因却の餘金拾五圓を懸賞して撈揚者を募りし事あり君之を聞くや直にその場に赴き潜水して容易に大錨を引揚げたり以てその水練に拔ん出たるを知るへし又最も長游を能くせり嘗て陸路四里の海上を往復せしとありと

君か捕賊の状況並に病中仕事の前號之を掲げしか事に詳略あり事實の誤謬あるを免れず因て其漏れたるを補ひ誤れるを正して左に之を記載せん或は重複に渉る所少からずと雖前後の文字上止を得されはかり君か遭難の時刻は最早や黄昏にして七時を過ぎたる頃なりし彼の曲者は萌黃の毛布を纏ひ居たるよし初君の之を怪しむや尋問上別に咎むべきとひあけれど何となく形狀舉動の穩ならぬを感せしかは豫め脚夫に目配りせして之れか戒心を喚起し陰に手袋を脱して劍柄を握り用意少しも油断なかりし既又曲者の狙撃に逢ひ抜刀して之れに迫り左肩を切りろのひるむを付入り真二ツにせんと刀を振り上げたるも待て暫し荷も警察吏たるものか賊に出遭ひ之を生擒せしして截り殺したりと云はれては此上の恥辱なしと心付き直に刀を捨て曲者を搏撃し難なく組伏せたるも

同類の來るあり一刀の下に曲者を突き留め應援者に當らんと洗足の大盥を曲者の頭に乘せ懸け待構へたるのの餘勇の程ころ思ひ遣られたり

却説脚夫の既に君の注目を領承し用心せし折柄砲聲一發耳を貫く驚き金員を擔ひしまし千葉警察署に急報しけれの署長の巡查を督し現場へ駆付けたるどき君の泰然として縁側に腰打掛け居たりその病院へ送られたるの夜の九時四十分頃にして翌朝五時半頃佐倉警察署より警部補來り慰問せしどき君恰も睡眠中なりしか之を聞かや頭を擡げ凡る二時間程遭難の顛末を語りしか毫も秩序を錯亂するとおし此日午後一時より三輪醫學士（前號に長尾醫學士とせし誤）の主任にて治療施術せられしも目的を達するとを得たりし（記者云若し此施術をして遭難の當時速に着手せしかれば或は生命を萬一に繋ぐとを得しやもしれず已に十八時間も過ぎて施術したるの時機を誤りたるにあらざる歎惜哉）因に記す三輪醫學士の當時人は物語られたるを聞くに尋常の人ならんには最初の一撃にても立働き出來ざる程の重傷なるに搦て、加へて最後の重傷にも屈せず強賊と奮闘せしは醫學的より推究すれば實に不思議千萬なりと

曲者の抗拒して縛に就かされはるの左手を挫き繩を懸けたるに其繩切れければ止むなく褲の紐を解き縛り上げんとするどき又も曲者の右手に持てる短銃を君の体より押付けながら二發連射せしに一九の外れどき賊は頻りに其謀者ありとて君を恐喝したれども君は少も驚かず之を引立て去らんとするどき彼の曲者の徐かに君に對し只今の御怪我の爲されぬかと再三問懸けたり君はるの負傷したるを明かさぬ曲者の氣焰を増さんとを慮り詐り告げて言ふよふ吾若し汝の爲めに怪我せしからは汝の罪も重るへけれども幸に怪我もせされぬ汝の罪も軽く済まん敢て憂ふる勿れど曲者の又聲を潜め尊君の膽勇實に驚くの外なし然し今奴を捕縛したれはとて僅か一等か二等昇級するに止まるへし奴の深き志望ありて斯る太臆なる事をもするなり今奴を見逃かし呉れんに千金二千金ハ屹度報酬すへしと請ひけれの君少しく笑を含み何條の心配の入るへきと言放ち雨後の泥途を凡る六七丁引摺り來てある農家を叩き賊を大地に轉臥し置き主人に警察署への急報を依頼し猶先に曲者か共謀者ありといしに心付き猶刀を把りて警戒し若し

就幕中は平素の如く談話を爲し人の遭難事件を問ふ者毎に毎に明晰に之を答へ遭難調書も自ら筆を執りて署名せり又遭難の翌日實父鈴木右衛門並兄拳一郎氏の來りしときも言語少も平日に異ならず詳細に遭難の顛末を告げ談話總て職務に關するとのみにして終に一家の私事に及はず、父羽右衛門氏の數年前より川崎銀行佐倉支店に在て事務を取扱へり昨年七千圓の國庫金を掠奪せられしときは同氏親ら金員を調査し封緘して脚夫に托せしを途中にて奪ひ取られ憤懣自ら堪へず常に此事を言て憤を漏らせしを君は之を慰めて不日捕縛して功を奏しるの憤怨を排除すへしと言ひ居りしに今回君の捕縛したる曲者は則昨年之賊なる事稍端緒を得たれば此事を君に語りしに喜色満面に露はれ占めたと一言せり蓋素懷を遂けたるを喜ひしあり

君既に自ら起さるを覺知し安然としてその終命を待ち精神毫も異狀を呈せず手から脈を按して最早や絶命に近きたりと云ひ合掌して眠るか如く長逝せりと

いふ

○官等俸給令の改正 本年四月三十日勅令第七十四號を以て警部消防司令看守長消防權關士警部補消防

司令補看守副長の官等並俸給を改め一般判任官同様とせし又内閣訓令第五號を以て其進級年限を定められ載せて本月三日の官報に在り情々此勅令第七十四號を按ずるに其精神は本年三月勅令第三十七號と同様なれども官制に於て警部と警部補と及消防司令と消防司令補と並看守長と看守副長との官等を異にし又消防機關士の從前七等以下と定められたる故に斯くの各々の官等俸給とも箇々別々に規定せざるを得ざるとはされり扱此改正につて大に幸不幸の場合に遭遇するものあるは自然免るべからざるの數なりとするも殊に氣の毒なるは從前六等の下級俸を得たる警部消防司令看守長と此人々ハ官等の上よりすれば改正官等四等に位し少くとも下級俸を得らるべきに内閣訓令第五號に據り内閣訓令第一號に遵へり此改正の現在其月俸の額を標準として別に辭令を用ひずして改正俸給額に相當する等級に叙せられたるものとなるか故に乃ち判任官五等の下級俸に居らざるべからず恰も二級の降等に相當し是迄下僚たりし七等上級俸の下に位し更にその級を隔てたる八等の上級者と比肩するに至りしハ不幸中の不幸とや云はん舊官等六等新官等四等に當るの中級下級俸の人

々は新官等の五等となるもその俸級に差なきを以て更に損益はなければとも旅費額に至ては甚しき損害を受けたりと謂つへし又茲に一言を要せべき一事あり勅令第七十四號の但書是なり此但書に據れば現に拾八圓拾五圓の俸給を受くる者は新官等に由り判任官五等となると雖其俸級の二拾圓を受くるを得ず矢張り從前の儘拾八圓拾五圓を受くべきものとす尤も俸給定額に餘裕を生し五等の下級俸即ち二拾圓を支給し得るものハ直に二拾圓を支給して差支なき事あり何故に此但書を要したるかといふに内閣訓令の如く現に受くる所の俸給額を以て新官等と定められたる旨趣に基くときハ拾八圓の俸給を受くるものハ廿圓に陞し拾五圓の俸給を受くるものハその官等を降して六等とせざるを得ずその二拾圓となるものハ僥倖なれども六等に降る者の不幸は如何や且拾八圓を廿圓とするときと既定の俸給定額に差異を生し豫算の變更を來すか如き不都合なきを得ず故に但書を附して估息の支給法を設けられたるなり此拾八圓拾五圓俸の者は當分の内々の儘新官等の五等として同額の俸給を與ふる事ハ明文に據て疑をなきとなから此但書を誤解して新ふ定め得るものと認定するものハ

り此旨趣は前文既に述べたる如く經費の都合もあると也へ直に二拾圓に引直し難き事情もあれハ當分ろの俸給を支給し得るとせられたるまでにて新官等に依り永く之を存置すべきものにあらず故に漸次拾八圓拾五圓の俸給を受くる者を増俸して一般判任官々等俸給令に當嵌まるもののみとせられんと社望まじけれ

本警察上の偉動なりと稱揚し深く其死を愛惜して止まず各自應分贖金の上香花料八拾三錢と鈴木氏が遺族へ宛られたる信書を添へ本會より紹介すべく旨依頼せられたるを以て本會ハ直に之を遺族へ向け送付の勞を取れり思ふに職に警察に在る諸君ハ鈴木氏が功勞を賞賛し其死を追悼せらるゝ事穴水分署諸各位と同感同情あるべきハ勿論ありと雖も吊慰法同盟府縣外に在つて率先して此美舉あるを見るハ實に感歎の外なきなり因に穴水分署諸氏より本會へ寄せられたる來翰を左に掲載す

○警官の服制 前號會て警察官の服制改正の事を記載せしがその後殆どその沙汰の聞へず改正の詮議は中止せられしかど疑ひ思ふ人も少からず然るにその筋の噂を聞けハ中々沙汰止み所でない頻りに發布を急ぎ居らるゝよし何故斯く永引くよや其邊は確と分らねども製式上ろの草案と陸軍の服と餘り似寄り居るを以て更に之を修正し大に草案の更正を致せしゆへ從て圖例制圖に變更を來し漸々延引したるなり最早や脱稿して上申の手續に及ひたるやの風説もあれハ多分暑休前にハ發布あるへしと想像す

這回貴社雜誌第六号雜報中ニ掲載シタル千葉縣巡查鈴木清助氏カ明治廿三年四月四日國庫金護送ノ途中兇賊ノ爲メ危難ニ罹リ身躬ヲ重傷ヲ負ヒ死ニ顯シ乍ラ之ヲ拿縛シ上公害ヲ保護シ下已レカ職任ノ本分ヲ完フシ未曾有ナル偉勳ヲ奏セラレシ顯末ヲ閱讀スルニ當リ寒然悚然知ラス識ラス歎美ノ聲ヲ發セシム嗚呼同氏ニ於ケル未タ吾々一面ノ識ナキモ是等シク同僚同胞ニシテ如斯忠節ヲ效タシ稀有ノ殊功ヲ顯ハシ吾々警察全体ノ榮譽光輝ヲ煥發セシメタル令名ハ日月ト俱ニ照々照々乎トシテ萬世不朽ニ傳ヘ増々將來吾警察諸士ノ龜鑑ヲラシム

○吊慰 千葉縣巡查鈴木清助氏カ職務の爲めに斃れたる顯末ハ會つて本會雜誌第六号雜報欄内に掲載せしが本誌の購讀者たる石川縣鳳至郡穴水分署中川武吉郎外拾名の諸氏ハ右鈴木清助氏が名譽は實に我日

世不朽ニ傳ヘ増々將來吾警察諸士ノ龜鑑ヲラシム

ルノ一大美事アルニ遭遇シ類リニ憤激追慕ノ情ニ堪ヘス因テ生等聊カ醜金シテ輕微ノ薄貲ヲ願リミ
 ス肅シテ之レヲ同氏ノ墓前ニ供シ吊慰ノ誠ヲ表セ
 ント欲ス請フ幸ヒニ御紹介ヲ蒙ラハ萬謝ノ至リニ
 耐ス候再拜

附シテ白ス亡鈴木清助氏遺族へ宛テタル書狀一
 封并ニ香花料金八拾三錢ニ郵便小爲替券ヲ以テ
 御回送ニ及ヒ候間尙御手数數ヲ宜布御執成方奉
 冀候恐々

石川縣鳳至郡穴水分署ニテ
 明治廿三年五月十六日 中川 武吉郎

- 坂上與一郎
- 林 豊 哲
- 田 中 政 美
- 赤 座 孝 諧
- 井 上 巖
- 丹 羽 祥 精
- 寺 西 秀 三
- 市 原 榮 吉 郎
- 小 泉 恒 太 郎
- 村 澤 國 氏

て讀者の參考に供することあるへし
 ○獄務顧問の演説 第一期司獄官練習所終業式に於ける獄務顧問の演説の大要を筆記したるものを得たれに左に掲ぐ

終業式に際し一言を陳へて諸君の清聽を煩はず、
 諸君、予ハ此學期間に於て自ら信して非常に勉めたりとなすにも拘わらず諸君に對し監獄管理法に關する全般の事項を講述したること能はざりし予の深く遺憾とする所なり、然れども此範圍の廣博なる學科に對し僅々二ヶ月間を以て講了せんことハ恐らく何人とも難んずる所なるへし、尤も此學期内に講述し能はざりしものハ次期の諸君に講述すべきを以て諸君はたとひ直接に聽講せられ能はざるも間接には之を研究せらるゝの便あるへく終に全体に涉りて首尾完結するを得るの機會あることなりと信す

縦令ハ全般の事項に涉つて尽く講了するに至らざりしも既に此二個月間に於て回を追ふて講述したるもの亦決して少きにあらず思ふに諸君か採つて以て之を實際に行はんと欲せり尙ほ幾多の研究と時日を費やすに足るの資料あるべきなり

○監獄官練習所終業式 去月三十一日を以て執行せり當日式場は臨まれたる西郷内務大臣を始め穂積博士、久保田秘書官、大浦警保局長、獄務顧問セーバツハ氏等にして最初に石澤所長、第一期終業の祝辞を朗讀し、次に獄務顧問の演説ありて小河滋次郎氏之を譯演し、終つて西郷内務大臣の告辞あり、小泉神奈川縣典獄、召集員一同に代つて答辞を述へ右にて全く式を終へり夫れより西郷大臣ハ來賓諸氏と共に石澤所長の案内に據り摸範監獄と聞へし東京集治監なる病監、新築監房、炊所、工場等順次隈なく巡閱せられ殊に新築の規模、囚徒服役の模様等に就ては一層、注意して視察を加へられしもの、如しと云ふ、巡閱、終りたる後、集治監の樓上に於て午餐の饗宴あり、席上に於ては内務大臣より獄務顧問に對し獄務上に關する種々の下問あり顧問は一々之に奉答して尽さるる所なしされハ大臣にも頗ふる満足の意を表せられ尙ほ將來國家の爲めに益々進んで斯の事業の改良を翼賛すへしとの懇囑あり 天皇陛下萬歳を唱へて首尾能く本日の式を終へたるは午後一時の頃ありしと當日内務大臣の下問に應じて顧問の奉答したるものハ筆記をも得たれハ次號に掲げ

予ハ諸君に對し成るべく實際上の手續方法に據つて講述せり而して此手續方法なるものハ既に幾多の經驗と研究を経て是認するに至りたるものなるか故に充分採つて以て摸範となすに足るべき價值あるものなり

予ハ此學期に於て諸君に對し傍ら軍紀的の演習をさせり演習の目的は諸君をして軍紀的正肅嚴格なる状態を認識し且つ諸君自らも亦た之れに訓練し終に進んで其率ふる所の僚属をして一に軍紀に則りたる我が普國に於けるか如き正肅嚴格ある規律及び秩序に訓練養成するに至らしめんと欲するにあり

予ハ今諸君に對して訣辞を述へ諸君か益々奮勵銳意して斯の事業の改良に従事せられ且つ予に對する懇親の情意を永く保たれんことを冀望するに當り併せて誠衷を以て諸君の健康を祈る斯の至難の事業諸君の健康なる精神と身体を保つて能く其改良の目的を達すべき也

○監獄の防火演習 監獄には大概幾千百の生靈を預り居ることなれハ平生より深く注意して萬一火災のあらんとき在監人は何地へ避難せしむべし消防ハか

くまなすへしと夫々計畫を定め置き時々看守押丁をして實地の演習を行へんと望ましかれ尤も囚人などの耳目に觸れしむるとの忌むべきなれ工場へ出て、在らざる時に監房の鎖鑰を開き在監人を引出す等の事を演習し又は還房後に唧筒の運用を試むると言ふか如く爲すべきあり仍は夫々適當の場所に避難所を像定し置き在監人を悉く出房せしむるまでの時間を量定し看守押丁各自の受持を約束する等も必要の事なるへし昔日の急遽の失火に狼狽して監房を開くに違わらず遂に幾多の囚人を焼死せるの奇談もありどか聞けり今日に於ては萬々箇様のぬかりあるまじしと確信すれども尙更御用心を希ふの餘一言するとのなれり望くは各監獄に於て出火時の心得を平生より定め置かれんとを

○罪質區分 在監人の現行監獄則は據れり罪質と犯數と年齢と行狀とに従て區分離隔すべきとにして其罪質の刑法の條章に準據すべしと勿論なきとも當局者の上成るへく罪の破廉耻に係ると否とを省みて區分を立てられんとこそ望ましかれ例之の同じく自殺に關する罪にても刑法第三百二十條と第三百二十一條との間に犯人の心事に於て雲泥混ならざるの

の注意の爲めに一言するのみ

○科料 我國の違警罪の科料の其範圍極めて狭く僅に五錢より一圓九十五錢に出でざるあり之を外國の例に照らせし著しき相異なるを見るへし今一例を擧ぐれり犬を嘍するの罪は我國にては五十錢以上一圓五十錢以下の科料又は二日以上五日以下の拘留に該れども獨國にては六十馬克凡る(二十圓)の科料又は十四日以下の拘留に處せらるべきあり

○帶劍 巡查看守どもに現今外部に装着するとなるか動もすれり暴人より不意に奪ひとられて護身具を奪て身を傷ふるの用となるの恐れあれど獨逸國の例に倣ひて之れを衣の下に帶ふる様改めたししかなるうへに奪ひ取らるゝ憂を去り由て必要に應じ左右の手を用ふるの自由を得彼是著しき利益なるへし因に其名稱に付き一言すへし現に用ふる品は劍にあらす刀あり同じく帶刀と改稱せられたしと言へるものあり實際如何にや

○最敬禮 と正面して直立不動の姿勢を示すにわれどもかくては禮式を受くる人の眼に留まらずとて其改正を希望する人もありどか聞けり誠々慨歎すべき次第ならずやいかにとされり姿勢嚴正されり判然目

差異あるなり要するに心術の穢れたる者と否らざる者との混同するとなからんを欲するあり

○立番 の要り其所の交通を監視して安寧を保護し危害を防禦するにあるへけれり其任に當る者は始終注目を一般の交通に向くべきあり故に或る一事の委任を受けたる時に脇目もふらず其一事のみに注目注意すべきとの其趣全く同しからざるなり例之ハ警衛の委任を受けたる時は専ら警衛すべき人の身邊にのみ注目すべく出火場取締の委任を受けたる時は他事に拘らず専ら人命財産の安全にのみ注目すべく囚人護送の委任を受けたる時も市街の派出所等に立番する目すべきか如くなるも市街の派出所等に立番する時其街路に於て眼界の及ぶ限り百般の事物に注目せざるへからざるべし故に其前を通過する上官(即ち警視警部制服を着する者)あるを知らずして之に敬禮を缺く時之を以て一の過失と謂はざるを得ざるへし其譯は注目を一事物に限らず立番者の視聽の達する限りの事々物を悉く其注意を脱るゝと能はざるを要すれり上官の通過に心付かずすれば乃ち其職を盡くさるるに當るへし立番者何卒耳目を普く百般の事物に用ひられんとを希ふあり是は一般

に立ざるの筈なく體制宜しきを得れり嚴正なる姿勢を成し得られざるの筈なく直立なる姿勢のなにもあるを辨すれば之に氣の付かざるの筈なけれりなり總して兵式の姿勢にさへ熟すれり毫末も不都合の生すへき謂れあるへし此の如き説の生するハ遺憾なから樂して體制の整然たらざる一證と謂ふべき乎要するは最敬禮を行ふべき場合は甚たまれなれば折角定められたる嚴肅の禮法を輕々しく改められさらんこそ望ましかれど或人の語れり

○監獄官練習所 は最初より二ヶ月間の豫定にてすては第一回の訓練を終へられたることなれり最はや典獄諸君も夫々歸途に就かるゝに至るあるへし次に召募さるべき眞の受業生諸君の多分九月を期して上京せらるゝことなるへしと仄に承れば其間三ヶ月の空隙を生ずる勘定なり恐くは教師フンゼーハ氏をして地方の巡回を命ぜらしめ其幾分を填めらるゝとあらんか然らり同氏も我國監獄の實地に通し着々改良上の妙案卓見を蘊蓄して猶ほヘーン氏の警察に於けるか如く充分の成績を顯はさるゝに至るへし吾人の心中竊に喜悅に堪へざるなり然れども又一方に於ては各地方にて外國人の爲めに

嗤笑せらるゝか如きと萬々之なき様固より御如才ハあるまじけれども切に希望に勝へざるなり

○理髮師の呼吸器 ろろ々々夏の時候となれハ毎日に必要を感じたる一事を開陳して注意を乞ひんとするは他なし至て些細なる事柄にて貴き學問上の紙面を汚すの恐あきども少々ハ價値もあるへしと自得して投書すると左の如し

暖氣の時に理髮店に行き鬚髪を剃却せしむれば就中口の上下の鬚鬚を剃るに方て穢臭ある呼吸氣を嗅され如何にも堪へられさるとあり我輩の如き胃を病む者の遂に嘔氣を催すに至るあり且理髮師に於ても不知不識の際に毛屑を嚥下するの恐あれハ主客雙方の衛生上の利益を計り理髮師をして呼吸器を用ひしむると致したし諸君以て如何とあす

○戸の開き方 最も慎重なる注意を要す就中學校官廳劇場等の如き常に多人數の輻湊する建物に在て然りとす此等の建物に於ては外部の戸皆外面に向て開くを要す萬一火災震災などあらん時に容易く戸を排して屋外に走り出つると協ららんハ恐くハ無數の死傷者を出すの憂あらんとを是は世に知渡りたる事柄なれ共益々注意を喚起せんとて此に一言す

○井戸浚へ は毎年行ひたきことなり今や初夏の候に在り恰も淘井の好季節なり我國の掘井は大抵木製の側を有し又は掘鑿の儘毫も人工を加へざるなり漆喰叩きかどの稀れなる方なせ故に雨中及雨後に地下水の滲漏を妨ぐることを能はず且木製の井戸側に在てハ木の腐蝕を避くへからず時としてハ外部より木葉等の有機物竄入することさへあるを免かれず水中に小蟲の發生せるありアムモニア格魯兒亞硝酸等の混交するあり是れ稀有の場合なりと言へ慎に慎を重ぬるゝ如くことなければ用心の爲めに毎年井戸の浚淘を怠るへからざるなり如何に清浄なる井水も三年以上浚淘せずして放置すれば大抵小蟲を發生するに至るか如し尤も湧出の勢ハ熾盛にして新陳代謝極めて迅速なる淺き井戸に在ては此患大ハ稀少なるへしと雖も油斷して敵に隙を與ふること勿れ僅少の勞力若くは費用を投して安全を計るより善きはなし

○フアンゼーパハ氏 今回彌々靜岡愛知岐阜三重滋賀京都大阪奈良兵庫和歌山の二府八縣へ出張を命ぜられ同行は小河滋次郎氏にして來る十日頃出發の由に聞けり傳承するに先づ三重に赴き南方を廻り夫より順次此方へ歸り來らるゝ都合なりとか

全國在監人月末現在表

明治廿三年二月末日現在

統計

區分	人	刑事被告人	懲治人	別房留置人	携帶乳兒	合計
警視廳	三、〇五七	八四〇	二二	三三七	一六	四、二七二
樺戶監獄	二、三五七					二、三五七
北空知全	二、九五九					二、九五九
海釧路全	一、一一三					一、一一三
道札幌全	三一	三四		七七		三五六
應函館全	二六六	三三		七七		三〇六
根室全	八七	九				九六
京都府	一、三三九	一六九	八	一一	九	一、五三六
大阪府	三、六七八	六二六	二七	一七七	四四	四、五五二
神奈川縣	一、二八九	二二九	八	二二	四四	一、五五二
兵庫縣	一、七八五	五八四	一六	二九	一八	二、四三二
長崎縣	八五六	一八三	二	四	三	一、〇四八
新潟縣	一、一〇一	一八一	五	二	八	一、三〇七
埼玉縣	一、〇四三	一八一	八	二	九	一、二五〇
群馬縣	八八八	二〇一	四	九	一	一、〇九四
千葉縣	九二八	一九八	四	〇	四	一、一四四

統計

小笠原島ノ分ハ未着ニ付省シ

兵庫假留監	監三池	治宮東	集東	沖繩縣	鹿兒島縣	宮崎縣	熊本縣	佐賀縣	大分縣	福岡縣	高知縣	愛媛縣	香川縣	德島縣	和歌山縣	山口縣	廣島縣	岡山縣	岡山縣	
總計																				
五七、五七七	一、五一四	六一七	九六五	二〇三	五八七	五三七	八二四	四八四	九六三	一、二八〇	九九九	九九四	一、二三一	一、二五二	九二〇	八二〇	一、六七一	一、六三六	一、六三六	
九、四八九				一一	八四	一一八	一二四	一七一	一七六	三七三	二一九	一三二	一九〇	一三六	一四六	一三〇	三〇〇	二二二	二二二	
二〇四					一	三	二			二	三	七	三	六	一	二				
九五七					二	四	二	一	二	八	四	三	八	一	三	六	五	四	一	二
三六七六八、五九四					一	三	五	五	五	四	一	三	四	二	三	一	四	一	一	一
一、八七二	一、五一四	六一七	九六五	二一五	六九七	六六四	九五八	六六三	一、四四五	一、六七二	一、二二七	一、一三三	一、四四四	一、四一一	一、〇八六	九六五	一、九九一	一、八七二	一、八七二	

統計

島根縣	鳥取縣	富山縣	石川縣	福井縣	秋田縣	山形縣	青森縣	岩手縣	福島縣	宮城縣	長野縣	岐阜縣	滋賀縣	山梨縣	靜岡縣	愛知縣	三重縣	奈良縣	和歌山縣	茨城縣
一、〇〇四	八六三	四五〇	四四〇	五三〇	六〇九	六七〇	四二一	二八三	一、〇〇五	六七四	九二六	一、〇三三	一、〇四八	四五九	一、一二二	一、七二一	一、三六六	四三三	六七六	一、一三八
一八九	一〇七	九一	一一一	五一	一七六	一八三	一九七	一〇三	二〇〇	一四六	二七九	一六五	二二四	八三	一七九	三四四	二五七	一〇四	九九	二一八
一		九	七	一					二		二	二	五	二	二	一	八	〇	一	一
七	五	二	四	二	六	六	一	一	五	七	七	六	三	三	四	八	〇	一	四	二
二	五	五	八	六	六	三	三	四	一	四	八	八	一	八	三	二	七	九	六	五
一、二〇三	九九〇	五五七	六一〇	五九〇	七九七	八六二	六〇六	三九〇	一、二三一	八三三	一、二二二	一、二一七	一、三二四	五六一	一、三二三	二、一三〇	一、六四三	五五八	七八五	一、四〇〇

四十

四十一

法令註解

警察巡閱規則註解 (承前)

九 戸口調査及監視人ノ取扱

戸口調査ノコトタル警察事務上最大緊要ナルハ言テ
談タル所ナリ 巡査ハ實地ニ調査スルニ因テ住民ノ
多寡其種類職業生活ノ狀況及平素ノ舉動人爲等ヲ知
ルヲ得ヘク警察署長分署長等ニ在テハ居ナカラニシ
テ管内ノ戸口住民ノ狀況ヲ机上ニ彙集詳知スルヲ得
ヘシ面シテ之レニ由テ一層ノ利益ヲ得ルハ犯罪人ノ
摘發令狀ノ執行上ニ屬スル諸般ノ便捷是ナリ
今爰ニ巡閱官ノ參考ニ供シ併テ警察上戸口調査ニ就
キ一二ノ希望ヲ述ント欲ス

(一) 戸口調査ノ普及

戸口調査ハ東京ニ於テハ早ク已ニ之ヲ行ハレ一時ハ
轉住寄留ヲ扱所ニ届出ルト與ニ警察署へ届ケ出サシ
メタルコトアリト覺ユツノ後届出ノ脱漏多キヲ知リ
之ヲ廢シ巡査ヲシテ毎戸ニ就テ戸口調査ヲ爲サシメ
之ヲ戸籍掛ト稱シ專任ノ受持ト爲シ爾來引續キ之ヲ
行フ故ニ東京ノ戸口ノ警察上ニ於テ詳悉ナルハ疑モ

其受持區内ニ住居スル家屋ノ數及人口ノ多寡ヲ實地
ニ就キ調査セシムルモノニシテ之レカ調査ノ方法順
序ハ千種萬様之ヲ詳論スレハ多數ノ紙面ヲ填充シ徒
ラニ讀者諸君ノ欠伸ヲ差シ招クニ至ランコトヲ恐ル
故ニ特ニ之ヲ詳論スルヲ止メ務メテ簡短ニ之レヲ述
フヘシ
各地方ニ於テ實際施行セラル、所ノ調査方法ハ其順
序二種アリ其一ハ受持巡査ニ於テ調査簿ヲ携へ市町
村役場ニ就キ戸籍ヲ寫シ取リ然レ後實地戸々ニ就キ
現住ノ人員ヲ調査シ其生年月職業等ヲ尋問シ戸籍ト
照合スルモノニシテ他ノ一種ハ先ツ戸々ニ就キ調査
シタル後市町村役場ニ就キ其戸籍ニ照合シテ誤ナキ
ヤ否ヲ判明スルモノ是ナリ其方法ノ良否ハ之ヲ判別
スルヲ得スト雖先ツ戸々ニ就キ調査シタル後戸籍ニ
照合スルハ手数少ナケレトモ再三役場ニ就クノ煩ア
リ先ツ戸籍ヲ寫スハ第一ニ據處ヲ造リテ戸々ニ就ク
コト故調査ノ際ハ一目瞭然タルモノアリト雖戸籍ヲ
寫スノ煩ハ遙カニ前者ニ勝ラン
警察上戸口ヲ調査スルハ極メテ重要ナル問題ニ屬シ
其何ノ爲メニ此手数ヲ要セサルヲ得サルヤハ別ニ解
説ヲ要セスシテ明ナリ既ニ其重要ナル所以ヲ了知ス

ナキ事實ナリ

ソノ他ノ府縣ニ於テハ三四年以來或ルモノ、刺戟ト
實際ノ必要トニ因テ戸口調査ニ着手シタレトモ素
ヨリ幼稚ニシテ經驗ニ乏シク實際調査ノ便否及利害
サヘモ辨ヘスシテ只外形上戸口調査簿ヲ製シ各署ニ
備ヘ置キ巡査ヲシテ時々之ヲ携ヘテ調査ニ從事セシ
メタリ是レサハ廳下若クハ繁華ノ地或ハ各署所在地
ノ市街ノミニ止リテ廣ク管内一般ニハ及ハサリ近
來殊ニ巡閱規則ノ出テシ時ヨリ俄カニ一般ニ之レニ
着手シタレトモ未タ普及セサル所ナキニアラス中ニ
ハ其意義ヲ誤解シ單ニ署所在地ニ限リ戸口調査ニ從
事セシメ管内一般ニ調査スルハ戸口調査ノ目的ニア
ラスト思考シ遇所轄内一般ニ調査セシメタル署長ニ
對シ戒飾ヲ與ヘタル向モアルヤニテ區々ノ狀態ヲ呈
シ未タ一般ニ殘ル限ナク調査ヲ遂ケタリト云フヘカ
ラス警部長諸君ハ巡閱ニ際シ査閱上最モ容易ニ着目
シ得ラル、モノハ戸口調査ノ整否及其精粗ナリ宜ク
銳意シテ之ヲ一般ニ普及シ速ニ整頓セシメラレシ
コトヲ希望ス

(二) 戸口調査ノ方法

戸口調査ハ東京ヲ除ク外ハ受持(駐在)巡査ニ於テ
ルニ於テハ極メテ精密ニ戸口ヲ調査スヘキコト勿論
ナリ蓋資力アリ恒産アリ定職アル者ニ對シテハ其調
査ヲ頻繁ニスルノ必要ナク唯ソノ家族ノ増減ヲ知り
得ルノミニテ足レリトスルモ下等社會無職無産ノ者
ニ至テハ警察ノ視察ヲ要スルコト少カラス是等ノ家
ニ巡査ノ數々臨檢スルハ大ニ取締ノ効力ヲ有スルモ
ノニシテ自ラ惡漢無賴者ヲシテ内ニ顧ミル所アリテ
自然其非ヲ改メ其惡心ヲ翻シ間接ニ警察ノ目的ヲ達
スルコトヲ得ルモノアリ故ニ戸口ヲ調査スルニハ住
民ノ種類ヲ區別シ資力恒産定職アル者、雇人ヲ使用
スル家、出入者ノ多キ家、多ク職人ヲ使用スル家、
職工場、機械場、警察ノ取締ニ屬スル營業者、土方
、日傭稼、無定職者、浮浪ノ徒若クハ惡漢ノ聞アル
者等ノ如キ警察ノ視察ヲ要スヘキ度ノ卑キ者ハ調査
ヲ疎ニシ視察ヲ要スヘキ度ノ高キ者ハ其度ニ從テ調
査ヲ頻繁ニシ其種類ニ依テ調査ノ程度ヲ定ムルヲ要
ス而シテ各地方ニ於テ此程度ヲ甲乙丙ノ三種ニ別ツ
アリ尙丁戊ヲ加ヘテ五種ニ別ツアリ其權利ノ多少ハ
各地方ニ於ケル實際ノ便宜ニ從フヲ以テ敢テ輕重ナ
シト雖其種類ヲ細別スレハ自ラ視察上ノ便利ヲ得ル
ハ亦疑ナキ所トス

善良ナル家ニ就キ數々戸口ヲ調査スレハ厭忌ノ心ヲ生セシメ徒ラニ恨ヲ招クノ手段タルニ過キヌシテ實益ナカルヘシ之レニ反シ惡漢無賴ノ徒ニ就キ數々戸口調査ヲ行ヘハ其内部ノ事情ヲ察知スルノ便ヲ得彼等ヲシテ恐懼ノ念ヲ生セシメ竟ニ自新ノ途ニ導クノ一方便トナルコトアリ此戸口調査ニ依テ得タル實益ニシテ好例アリ某地方ニハ嬰兒壓殺或ハ墮胎ノ弊アリ昨日ハ腹部膨脹便々トシテ今ニモ出産スルノ狀アリシ婦女モ今日ハ縮小シテ平常ト異ナルコトナク而シ出産シタルニハ相違ナキモ産兒ヲ見ス隣佑之ヲ見テ怪シマス郷人之ヲ知ルモ敢テ意トセス夫妻亦之レニ慣レテ恬然タリ是レ此地方ノ慣習ニシテ村長之ヲ諭シ郡長之ヲ戒メ警察官之ヲ禁スルモ因襲ノ久シキ却テ其言フ者ヲ怪ムノ狀況アリ警官已ニ其慣習ナルヲ知ルト雖罪ハ則罪ナリ忍テ告發スルノ場合少カラサリシ然ルニ戸口調査ヲ嚴ニシテ下等社會ニシテ妊婦ノアル家ニハ殊更注意シテ調査ノ度數ヲ増シ兼テ墮胎壓殺ノ天理ニ背キ其罪ノ重キ所以等ヲ説キ之ヲ戒諭スルヨリ自然其習俗ヲ破壊シ此惡弊ノ痕ヲ絶ツニ至リシモノアリ又或ハ戸口調査ニ因テ風俗ヲ矯正セシモノアリ博奕ノ會場タリシヲ止メタルモノアリ實

地調査ノ方法ニシテ其宜ヲ得ハ行務上ノ實益ヲ收ムルコト更ニ大ナルモノアラシ
 之ヲ調査スルハ巡查ノ任ナリ巡查諸氏ハ既ニ其利益ヲ了解シ居レリ故ニ斷ヘス之レニ從事セラルハ論ヲ談タス東京ヲ除キ他ノ地方ニ於テハ巡查ノ受持區ヲ定メ其區内ノ事故ニ付テハ一切其責ヲ負擔セシメアルヲ以テ戸口調査ノ如キハ責任巡查ニ於テ之ヲ爲シ別ニ戸籍專務ノ巡查ナシ然レトモ其實地調査ノ方法ハ亦異ナルナキ能ハス駐在巡查ニ在テハ多ク一定ノ非番ナキヲ以テ其調査ハ巡回勤務ノ傍之ヲ爲シ署所在地ノ受持巡查ハ非番ノ日之ニ從事セリ故ニ署所在地ハ常ニ精密ニシテ臨檢モ亦周到ナリト雖駐在所受持區ニ在テハ自ら粗雑ナルヲ免レス今之ヲ一定シテ精粗ナカラシムコトヲ欲セハ別ニ戸籍專務ノ巡查ヲ置クヲ要スレトモ配置規則ノ許サ、ルアリテ之ヲ爲シ得サルヲ以テ已ムヲ得ス其力ノ及フ限り精密周到ナラシムルニハ駐在巡查ヲシテ巡回毎ニ必ス調査簿ヲ携帶セシメ斷ヘス之ヲ行ハシムルニ在リ
 警察ノ戸口調査ヲ始メシ以來著シキ實効ヲ見タルハ生年月ノ相違ト通稱ニ兩名アルコト並自ラ其姓名ヲ詳知セサル者アルヲ發見シタルコト是ナリ生年月ハ

隨分籍雜シ易キヲ以テ間々相違ヲ生スルモノナレトモ實際邊隅ノ住民ニ在テハ村長へ届漏ノ者多ク或ハ人ニ依托シテ届出ヲ爲スノ際其人ノ爲スニ任セテ自ラ之ヲ檢セサルカ故ニ他人ノ想像ヨリ年月ヲ誤ルモノアリ或ハ戸籍法布告ノ刷新ニ届出ヲ爲スニ當テ兒女ノ年齢ヲ當歲トシテ届ケタルアリ諸ノ斯クノ如キ次第ヨリシテ今日ニ至リ其不都合ヲ發見スルナリ畢竟村長ハ是迄届ヲ受取ルノミニテ調査ヲ爲スコトナカリシヲ以テ其差異アルヤ否ヲ知ラザリシニ巡查ノ實地戸々ニ就キ調査スルニ當リ戸籍ト實物ト大ニ異ナルモノアルヲ知レルナリ其通稱ニ兩様アルハ甚疑訶ニ堪ヘサルカ如クナレトモ文字ナキ人民ニ於テ往々是レアル事實ニシテ其理由ハ既ニ諸君ノ知ル所ナレハ茲ニ贅セス此兩件ハ調査ノ際慎重ナル注意アラフコトヲ要ス而シテ若シ此ノ如キ錯誤アルコトヲ發見シタルトキ爲シ得ル丈ク其生年月ヲ確メ之ヲ戸籍面ノ生年月ノ傍ニ副書スヘシ其通稱ノ戸籍名ト異ナルモノ亦然リ斯ク兩様ノ事柄ヲ調査シ置ケハ他日必要ノ生シタルトキ大ニ便利ヲ得ヘキナリ
 又巡查ノ調査シタル戸數人口ト役場帳簿ノ戸口數ト差異アルモノ少シトセス而シテ巡查ノ調査シタル數

常ニ多キニ居ルハ甚異シムヘキカ如シト雖開ハ役場ニ届漏アルヲ以テノ故ニシテ警察ノ調査アル効果ト謂フヘキノミ (未完)

問 答
 第十問 街路撒水ノ利害如何
 出題者 光 陰 生

○囚人ノ賞罰ニ就テ
 賞罰ハ統治ノ秘訣ナク賞罰ニシテ其當ヲ得サレハ忽チ自暴自棄ノ心ヲ生セシメ爲メニ懲戒感化ノ實効ヲ奏シ得難ク其因情ニ影響チ及ホスヤ實ニ大ナリト云フヘシ監獄則ニ於テ特ニ賞譽懲罰ノ部門ヲ設ケテ其種類方法ヲ規定セラレタルモ蓋シ其忽諸ニ附スヘカラサルモノナルヲ以テノ故ニ外ナラサルナリ夫レ如此規定アルニ於テハ各地其扱方ヲ慎重ニナシ區々ニ出ルカ如キコトナキハ信シテ疑ハサル所ナリ然ルニ或ル所ニテハ賞表ヲ有スルハ再犯以上ノ者ニ多シト云フ者アリ是レ其行狀ノ善良ニシテ檢改ノ狀アルニ

ヨルナルヘシト雖屢々監獄ニ入ル者ハ能ク監獄ノ事情ニ慣レ巧ニ吏員ノ甘心ヲ買ヒ陽ニ改悛ノ狀ヲ粧フノ術ニ長ス之ニ反シテ初メテ監獄ニ入ル者ハ其行狀善良ナルモ其爲ス所拙ナルカ爲メ吏員ノ目ニ上ラス爲メニ賞譽ニ漏ル、ノ不幸ヲ受クルコトナキヲ保シ難シ此ノ如キ事實アルニモ拘ハラス外形ノミヲ以テ賞譽スルニ至テハ賞譽ハ兇惡ナル者ノ有ニ歸シ眞ニ順良ナル者ハ却テ兇惡者ノ後ニ墮若クテラサルヲ得ス是レ則チ其美ヲ奪フテ其惡ヲ賞勵スルモノト云ハサルヲ得ス豈之ヲ以テ當テ得タルノ扱ト云フヲ得ンヤ若シ賞譽ニシテ當テ得サレハ賞譽セサルノ優レルニ若カサルナリ凡ソ罪ヲ犯シテ再三監獄ニ入ル者ハ前非ヲ悔悟セサルノ惡徒ナレハ其中八九ハ改悛ノ望乏シキ者ナリ獨リ其外形ニノミ偏依セハ賞譽ノ實ヲ失ス故ニ再犯以上ノ者ヲ賞譽スルニ就テハ他囚ヨリ一層其調査ヲ慎重ニシ其眞想ヲ看破シテ老犯宿囚ノ爲メニ欺カル、コトナカラシムルノ注意アラマホシ其懲罰ニ於ケルモ亦然リ獄則處分ヲ受クル者ハ初犯者ニ多クシテ再犯以上ノ者ニ少キヲ見ル是亦再犯以上ノ者ニ獄則ヲ犯スコト少キニアラスシテ巧ニ其犯跡ヲ隱蔽シ若クハ他ノ順良ナル者ニ移シテ處罰ヲ

受クル者少キニ因ルノミ司獄ノ局ニ當ル者注意セサルヘカラス而シテ處罰スルニハ各其罰具ヲ備ヘサルヘカラス然ルニ監獄ニ依リ監獄則所定ノ懲罰ヲ實行スヘキ罰具即チ閤室屏禁室ヲ設ケサルアリ此等罰具ノ設ナキ爲メ如何ナル犯則ニテモ皆之ヲ減食ニ處シクノミナラス懲罰ノ實効ヲ奏シ難ク囚徒ノ侮慢ヲ招致シテ駕御其宜シキヲ制スル能ハサルニ至ル是レ囚徒ヲ待ツノ法ニアラサルナリ苟モ一監獄ノ体面ヲ存シ各個特立スル以上ハ懲罰室ヲ定備シ監獄則ニ所定ノ懲罰ヲ實行セサルヘカラス且賞譽優遇以テ善行ヲ獎勵スル等待遇稍寛容ニ歸シタルカ如キ感覺ヲ囚徒ニ與ヘタルノ今日ニ在ツテハ猶更甚則チ犯シ惡行ヲ爲セシ者ハ之ヲ嚴罰シテ假借スル所ナク再ヒ犯則スルノ念慮ヲ斷タシメ以テ懲戒ノ實ヲ示サ、ルヘカラス懲戒ノ實ヲ示シ監獄ノ威嚴ヲ保タンニハ罰具ヲ完備セサルヘカラス故ニ屏禁室閤室ヲ建設シテ眞實必罰ノ道ヲ明カニセラシムコトヲ望ム

○典獄諸君

九坡 逸 夫

歸ヘらるヘタレハ本欄に於ても聊か一言を誌して以て窃に送別の意を表せんとする者あり諸君ハ平生極めて繁劇ある職ニ居らるゝに今回二ヶ月の久き間其任を離れて滯京せられたることなれハ此後ハ無甚タ多忙に困せらるゝならん況や獨逸教師の説を聞きて種々改良の考案を齎し歸らるゝとかれハ彌々實地に改良案を試みらるゝ迨にも諸般の調査を要せらるゝべく其腦力を盡して深思熟慮を要せらるゝともあるべく其上若々實施せらるゝの曉に之更に幾層の困難に遭遇せらるゝともあるへし是等の勢ハ諸君の固より豫期せらるゝどころあるヘタレとも尙更勇を鼓して百難を排し早晚大改良を遂行して一のら十まで悉く間然すへき點な兒に至らしめんと奮發せられんとを切望するなり尤監獄の目的物ハ生物なり故に改良進取ハ大槩歩を揃へて行はれざるヘからず若し一事ハ進み他事は進まずと言ふか如き不具の改良ならんハ或ハ不測の困難を生起するの恐かしとせず何卒平推に推し進まんとを期せられたし且一步を進めたらは少くとも一步だけハ保守して決して一寸たりとも後ヘハ引かぬとを計られたし故に最初より遠大の籌策を立てて改良を要する諸點を系統に纏め全體の成算を定

めて後順序を逐ひて間諒なくそれから手をと着られたし漫然不揃の改良を爲し始めらるゝハ後日或ハ退却せざるヘからざるか如き不便なきに限らざるへし吾人ハ最熱心に完全なる改良進歩を希望するあり故に外觀的の假裝主義を痛く嫌惡し必ず根治主義を執られんとを希圖するの餘寧ろ輕進又失せんよハは漸進的の方針を執りて進みたる上は一步たりとも退却するとなしと覺悟せられんとを熱望するあり右は老婆心を以て釋迦に説法の笑を顧みず敢て諸君の注意を乞ふ所なり諸君ハ滯京の期日僅に二ヶ月なりしとは言へ其間に獨逸の模様を知り刑法の理論を究め職務上緊急の説話を聞き監獄則の疑問を質し其他各地の實際を相語りて知識を交換し又別事ながら宮城を拜觀し博覽會を見物せられたる等の利益中々枚舉に遑あらざるへし諸君の爲め言ふも監獄の爲めに言ふも二ヶ月間職務を離れられたる損失を償ふて餘あるへしと思はる唯此上は實際に續々效顯を表明せらんとを期するのみ諸君は必ず吾人の望を空ふせられざるへしと確信す諸君冀くハ自愛して健康を保ち數年ならずして實地の效績を齎し更ニ本地に會合せらるゝの期あらんとを

○家屋の高さ

には現今制限あることなし目下編纂中ありとか聞く建築條例に其規定のるや否を知らざると雖も吾人は是非とも斷然たる處置に出てられんことを希望して已まざるなり抑も人の生活に最も必要にして須臾も闕如すること能はざるべきものは空氣と日光との二物に外ならず若し家屋の高さ適度に過くれれば近隣の家屋に向て此兩者を遮斷すへし後來街路幅の擴張全く成功し四層五層の樓閣雲表に突出するも以て街路の幅員に一籌を輸するに至りたる上知らず其未だ此域に達せざる間必ず多くとも三階を以て極度と定むべきか勿論此制限とても多少の取除を許容せざるにはあらず結局一般普通を例して斯の如く言ふのみ又我國ハ地震の災稀ならず故に歐米諸大都會の轍を履みて高閣大厦を營造すへならず東京の地たる所謂山の手の諸區は地盤天然にして頗る堅固なりと雖も夫の下町の諸區に至りてハ大抵地質鬆然として地盤脆軟あり幾十尺の深きに掘り到らされり天然の地盤に達届すること能はず若し費用と勞作とを厭ひて建築の地形を不完全に止むるときは一朝強震の來るに遇ひ果して如何ある慘害を發生すべきや豫先慮

寄書

○給與工錢ヲ論ス

愛媛縣監獄 長谷川永太郎

抑モ作業ヨリ生スル工錢ノ幾分ヲ作業者ニ給スルハ刑法第二十五條ニ規定スル所ニシテ即チ同條ノ明文ニ曰ク(定役ニ服スル囚人ノ工錢ハ監獄ノ規則ニ從ヒ其幾分ヲ獄舎ノ費用ニ供シ其幾分ヲ囚人ニ給與ス云々ト又監獄規則第二十二條ニ之レカ額ヲ規定シテ曰ク(定役ニ服スヘキ囚人現役一百日ヲ經レハ始メテ各自ノ工錢ヲ料定シ之ヲ十分シテ重罪囚ニハ其二分輕罪囚ニハ其四分ヲ與ヘ餘分ハ監獄ノ費用ニ供ス)ト而シテ之レヲ給與スルモノハ彼レニ享受スルノ權利アルニ非スシテ恩惠贈與タルヲハ勿論此ノ恩與ノ因テ起リシ所以ノモノハ滿期放免ノ日就業ノ資本ニ爲サシメ再犯ヲ防クニ外ナラサルナリ又之レニ伴フ利益ハ因テ以テ自カラ進ンテ作業ニ就カシメ暗々裡ニ勤勞ノ心ヲ養成シ亦隨テ勤儉貯蓄ノ尊重スヘキヲ實地ニ知ラシムルニ在リ而シテ小河滋次郎氏給與工錢ノ旨義ヲ論ジテ曰ク

(前畧) 工錢給與ハ贈與契約ノ性質ヲ有スルモノト

らざるへからざるなり震災を外にせると仍は懸念すへき數多の點あり家屋高大なれハ其の重量も從て増加すへし當に家屋の爲めに重量を増加するのみならず建物ノ廣さ大なれハ一時若くは常時其の内に住する人數も益々増多すへし又た建物ノ高さ著大なれハ其の面積も相應に増大すへし此に於てか試に思へ一旦大風吹荒みて此の大家屋の一方のみに衝突し或は何等かの機會に際して家屋の一方のみに多數の人員集合することあらんに設令ハ家屋ハ傾覆することからんと欲せざるも得へけんや(地盤堅硬又は彈性なれハ此の憂少なるへきを地質粗惡なれハ過大の重壓ニ逢ひて陥落せざることを得へからざるあり)又于今甚しく高大なる家屋を建築するを縱るせば他日何等かの工事ニ際して莫大なる賠償を要するの虞あり(尤も市區改正上下水市内鐵道等凡て文明の諸工事落成の後に至れば復た此の如き虞なかるへし)既に本誌の紙上に此の問題を掲出せるの先蹤あれば其の因みに少しく卑見を書して世の識者よ問ふこと爾り

謂フヘツ贈與契約ニ由リ所有權ノ移轉スルハ契約ノ當時ニアラズシテ物件ヲ受領シタル時ニアリトス是故ニ囚人ハ未ダ工錢ヲ受領セサル内ハ之レニ對シ所有權ヲ有スルコトナク國家ハ未ダ之ヲ囚人ニ下付セサル内ハ其意思ヲ以テ隨意ニ之ヲ使用若クハ變更スルノ權ヲ有ス是レ其所有權ハ國家ノ掌有スル所ナレハナリ

又警察監獄學會改正監獄則註解中領置工錢ヲ説イテ曰ク

領置工錢ハ未ダ之ヲ作業者ニ交付セサル中ハ凡ハテ監署ノ所有ニ屬スルモノトス故ニ其領置若クハ押送中或ル事故ニ依リ消滅又ハ減少スルモ監署ハ之レヲ賠償スルノ義務ナキハ勿論監署ニ於テ或ル都合ニ依リ之ヲ交付セサルモ作業者ハ之レニ向ツテ請求ヲナスノ權利ヲ有セサルモノトス又曰ク(前畧) 裁判執行權ヲ以テ囚人ノ領置工錢ニ對シ差押チナス能ハサルモノトス是レ蓋シ工錢ノ所有權ハ監署ニ屬スルモノナレハナリ(獨逸千八百四十年十二月二十八日發布ノ勅令民法第七百四十九條及ヒ千八百七十年一月十一日發布ノ給與工錢條例第七項參看)

獨逸ナレハ兎モ角モ我國現行ノ法律ニ由リ斯ノ如キ
 說ヲ爲スニ至テハ小生ノ速了ニ左袒スル能ハサルモ
 ノアリ請フ左ニ其理由ヲ述ヘン抑モ國家ハ將ニ法律
 ナ以テ四人ニ對シ工錢給與ヲ社會ニ宣布シタル上ハ
 此ノ法律發生ト同時ニ國家ハ之ヲ支給スヘキノ義務
 ナ負ヒ之レト相對シテ一方ニハ法律ノ範圍内ニ於テ
 之レヲ受クルノ權利ヲ得ルヤ明ナリ而シテ所有權ノ
 移轉ハ契約ノ當時ニオラスシテ物件受授ノ時ニアル
 ハ獨リ贈與契約ノミ然ランヤ賣買交換讓渡其他所有
 權ノ移轉ヲ目的トスル契約ハ皆然リ此ノ所有權移轉
 セサルノ故ヲ以テ其意思ニヨリ隨意ニ之レヲ變更解
 除スルヲ得ルト云フハ誤謬ノ見解ニシテ斯ノ如キ不
 法ノ理アラサルナリ格言ニ曰ク（結約ハ己レニ在リ
 解約ハ己ニオラス）ト契約ノ當時之レヲ爲スト爲サ
 ハルトハ己ノ隨意ナレモ己ニ双方ノ合意ニヨリ苟モ
 契約ノ成立シタル以上ハ之レト共ニ權利義務相對シ
 テ發生シ之レヲ解除變更スルニハ亦双方ノ合意ヲ要
 スル敢テ智者ヲ俟タスシテ明ナリ而シテ人定ノ法律
 ハ之レト異ナリ國家ハ其意思ヲ以テ何時之レヲ變廢
 スルヲ得ルヤ否人定法律ハ永遠ニ繼續シ得ヘキモノ
 アルコトナク却テ民情ノ變遷ニ從ヒ施政ノ方針ヲ變シ

隨テ法律ノ變廢ハ必要缺ク可カラサルナリ然レトモ
 其効力チ及ホス所限界アリ曰ク法律ハ將來ノ爲メニ
 設ケ之カ効力チ既往ニ及ホス可カラサルナリ（法律
 ハ其前チ視ル後チ視ス）トハ立法上ノ格言タリ宜ナ
 ル哉今年得シ權利モ明年制定ノ法律ニヨリ今日得シ
 權利モ明日制定ノ法律ニヨリ其權利チ失ハンカ國民
 ハ一日モ安堵スル能ハサルナリ夫レ然リ然ルチ況ン
 ヤ現行法律ニ明文アルルモ尙ハラス國家ハ法律ノ指
 示ニ反シ其意思ヲ以テ隨意拾捨チ爲スニ至テハ國民
 ノ危險之レヨリ甚タシキハアラサルナリ故ニ國家ハ
 現行法律存在中ハ特別ノ法律ヲ設ケサルニ於テハ給
 與工錢チ増減變廢ス可カラサルハ勿論道理上若ラシ
 ムルノミナラス國家ハ尙モ前言チ喰マス四人ニ對シ
 着實ナル所爲チ示スハ感化上必要ニシテ亦如何ニ囚
 人ト雖モ既得ノ權利侵害ス可カラサルナリ而シテ給
 與工錢所有權ノ移轉ハ之レヲ各自ニ交付セサルモ監
 獄則施行細則第五十三條執行ノ時ニアリトス全條ニ
 ノ曰ク（在監人ニ與フヘキ工錢ハ毎月ノ首ニ於テ其
 前月ノ總計金額チ本人ニ示スヘシ）ト本條ニ云フ本
 人ニ示ス所以ノモノハ法律ニヨリ之ヲ得ルノ權利ア
 ルモノハ隨テ其計算上違算アレハ其訂正ヲ要求スル

チ得ルモノナレハ之レカ交付ニ換ユルニ毎月本人ニ
 示シ計算上ノ當否ヲ確カメ後日數年前ノ違算ヲ取調
 フル等ノ煩雜ヲ防クニアリ若シ論者ノ言ノ如ク減少
 或ハ全ク給與セサルモ可ナルモノトスレハ下付ノ以
 前ニ其金額ヲ示スノ必要ヲ見サルナリ而シテ之レチ
 本人ニ示スハ交付ニ換ユルノ手段タリ論者ノ謂ユル
 物件受授チ表スルモノニシテ爰ニ始メテ所有權ノ移
 轉スルヤ明ナリ監獄則第二十三條ニヨリ之レチ本人
 ニ渡サ、ルモノハ管ニ工錢ノミナラス監獄則第八條
 及全施行細則第六條ニヨリ入監ノ際所持ノ貨物并ニ
 在監中外人差入ノ貨物トモ一切獄内ニ於テ携有セシ
 ヲサルモノハ監獄整理上必要アレハナリ此ノ必要ノ
 爲メ設ケシ便法ニヨリ典獄領置スルノ故ヲ以テ決シ
 テ所有權チ侵害セサルナリ若シ論者ノ如ク實際ノ形
 跡ニノミ拘泥シ手ヨリ手ニ渡サ、ルチ以テ物品ノ受
 授ナシトシ隨テ未タ所有權移轉セサルモノトスレハ
 在監中外人ヨリ差入ニ係ル領置ノ貨物モ本人出獄ノ
 日下付スル迄ハ尙ホ所有權ハ差入人ニアリテ其當日
 迄ハ贈送者ノ意思ヲ以テ其幾分若クハ全部ノ贈與チ
 停止シ之レカ返戻ヲ要求スルヲ得ルニ至ラン依テ此
 ノ所有權チ移轉セシメンニハ一度受クル者ノ手ニ握

ラシメ直チニ引上ケ以テ典獄之レチ領置セサル可カ
 ラサルナリ實ニ不當ノ見解タルコトハ一目瞭然又少シ
 ク道理チ識別スル者ハ斯ノ如キ兒戲ニ等シキ行爲チ
 ナサス況ンヤ官署ニ於テチヤ差入貨物モ亦受授ニ換
 ユルニ之レチ本人ニ示スチ以テ足レリトス官署ハ在
 監人以外ノ人ノ所有貨物チ領ルノ謂ハレナキハ賭易
 ノ道理タリ故ニ領置工錢ノ所有權ハ己ニ在監人各自
 ニ在ルコトハ昭々乎トシテ明ナリ管ニ理論ノミナラス
 法律モ亦之レチ是認セリ即チ監獄則二十五條ニ云フ
 領置ノ貨物トハ領置ノ工錢ヲモ包含セルハ敢テ言チ
 俟タサルナリ然レハ給與工錢モ一度領置セシ上ハ在
 監人固有ノ財貨物件（入監ノ際所持シ居リシ貨物チ
 云フ）ト混同シ之レチ總括稱呼スルニ領置貨物ト云
 フノ名辭チ以テシ己ニ工錢ノ名義アラサルナリ此ノ
 領置貨物（領セシ工錢チ云フ以下同シ）ノ消費チ全
 條ニ於テ許セシモノハ蓋シ所有權各自ニアレハナリ
 抑モ消費權ハ所有權中ノ一部ニシテ所有權アラサル
 物件ニ對シ消費權ノミ存在スルモノハ曾ラフラサル
 ナリ又監獄則第二十四條全施行細則第八十一條ニ規
 定シテ在監人死亡スルモ尙ホ之レチ親屬ニ下付スル
 ハ之レ亦所有權各自ニアレハナリ若シ所有權國家ニ

アリトスレハ在監人死亡ト共ニ當初給與ノ目的滅却
 シ最早下付スルモ其効果アラサルナリ已ニ効果ナク
 レハ下付ノ必要アラサルナリ故ニ已ニ領置貨物ハ在
 監人ノ所有タレハ國家ハ都合ニヨリ下付セサルモ可
 ナリト、云フコト有ル可ラサルハ勿論官署ノ過失ニ
 ヨリ消滅或ハ減損セシムルレハ國家ハ賠償ノ義務ヲ
 免レサルナリ舊則ニヨルモ其第五十七條ニ逃走囚
 ニ對シ其工錢ヲ沒收スルノ制アリ依テ或ハ少シク疑
 テ生スルナラン然レモ素ト全條ハ在監人ト逃走ノ念
 慮ヲ減殺セシメン爲メノ特定法タルニヨリ之レカ爲
 メ全法施行ノ當時ト雖モ既得ノ所有權ヲ障害セサリ
 シコトハ(明治十八年廣島縣伺ニ對スル全十九年一月
 指令及明治二十年十二月宮城集監伺ニ對スル全廿
 一年一月指令)ニ徴シテ明ナリ況ンヤ現行監獄則ハ
 此ノ條項ヲ削除セシ今日最早領置貨物ニ對スル所有
 權ノ所在ハ一點ノ疑ヲ存セサルナリ既ニ領置貨物ノ
 所有權ハ在監人ニアリ即チ其本人ノ私財ナリ私財タ
 レハ裁判執行權ヲ以テ差押サレ得サルノ法規無之ニ
 於テハ之ヲ差押ヘ得ヘキモノト思考ス然レモ小生モ
 差押ヘテ許サ、ルヲ以テ正當ナリト思惟ス故ニ速ニ
 其規則ヲ設ケラレソコト希望ス而シテ之レカ規定ア

○地方警察官諸君に告ぐ

銀街 迂夫

夫れ警察の職務たるや規矩準繩によりて其職務を全
 ふし得べきものにあらすして臨機自由の處分に出つ
 るもの多きに居るを以て豫め一定の法律規則に由り
 て規定するを得ざるものあり其法律規則に由りて處
 分すべきものゝ如きは必ず其法律規則の範圍内に於
 てこれを處分し一步たりとも其範圍外に出ることを
 得ざるなり其臨機自由の處分に出づるものと法律規
 則の範圍内に於て處分するものとを問はず成るべく
 全國平等平均の處分を爲し或る地方に於てハ其處分
 寬にして或る地方に於ては其處分嚴あるか如きこと
 あるへからず被是異同奇きを期せざるへからず然る
 に事茲に出して或る地方にては其處分寬にして或る
 地方に於ては其處分嚴あるか如き傾向ありて爲めに
 警察其信用を薄からしむるの嘆なき能はざるものあ
 り故に警察の處分ハ成るべく平均あるべき尤實に必
 要のことありとす若し夫れ警察の處分に必要ある平
 均を欠くか如きことあらハ余輩ハこれを稱して不具

なる警察と云いんとす
 然れども其寬嚴の中庸を得て全國彼是異同なきを期
 するハ實に至難中の至難にして一定不易あることハ
 得て望むへからず何となれば法律規則の範圍内にて
 處分するものゝ如きは法律規則を標準とすべきもの
 なれば各地方に於て其の處分同一なるべきは當然あ
 りども素これ法律規則ハ死物なればこれを活用する
 は當該官の人の解釋如何に由て異なるものなれば
 其解釋を同一からしむるにあらざれば到底各地同一
 の處分を求むること能はざるあり彼の政談演說會届
 出の手續の如きは三日以前に警察署へ届出へき成規
 にして其三日以前の解釋に就きても或る地方に於て
 ハ届出の當日を算入し或る地方に於てハ之を算入せ
 ざる解釋を爲し又演說開會の際議題變更を申出ると
 き或る地方に於ては監臨警部に於て之を認可するの
 解釋を爲し或る地方に於てハ之を認可せざる解釋を
 爲し又彼の立會演說の如きも或る地方に於てハ之を
 認可せざる意見を持ち或る地方に於てハ之を認可す
 るも差支なしとの意見を抱き居らるると聞けり既に
 法律規則なる標準あるものゝ解釋にても其見解の異
 なること此の如くあれハ況して臨機自由の處分に於

てハ當該官の腦髓に由て處分するものなれば其處分
 の同一あるを求むるは實に至難の事にあらすや
 夫れ然り而して余輩ハ各地人情風俗を異にし従て其
 處分を異にせざるへからざるもの迄も悉く皆同一な
 らしむへしといふか如き極端の意見を抱くものにあ
 らすして其大體に於て全國一般に平均の處分を要す
 るものに限りて各地方同一の處分に出ざるへからず
 といふ所以なり而して全國一般に平均の處分を要す
 るものと雖とも處分權施行の手續に至りてハ各地方
 同一の取扱を爲すを得ざるものあり何とされハ人民
 の智識の程度進歩し警察の干渉を待たざるも自ら進
 て其爲すべきを爲し爲すへからざるを爲さざるに於
 てハ人民の行爲に任せて可なりといへども若し人民
 の智識の程度低くして警察の干渉を要する地方に於て
 ハ警察はこれヲ干渉し其爲すべきを爲さしめ爲すへ
 からざるを爲さしめざるへからず之を要するに
 人民智識の高低により其取扱に斟酌する所あるへ
 からずと雖も其處分の點に至りては各地方とも同一
 平均なるを期せざるへからず而して之を同一平均な
 らしむるにハ如何なる方法に依れハ其目的を達し得
 べき乎といふに甚だ困難なる問題にして其處分すへ

き事項たる千態萬狀にして一々中央政府の諸國を求むるを得ず中央政府に於ても一も之れか指圖を爲し得へきにあらざるをもて警察官吏をして學理に通曉せしめ之を實際起るへき事實に當符め處分せしむるに於ては各地方畫一の處分を見るは難かるへきも殆ど同一平均の處分を見るを得へし兎に角警察官は尙一層學問を研究し之れに由て得たる所の學理をもて實地に應用するにあらざれど到底其目的を達するこゝと能はざるなり

翻譯

○メルボン監獄吏員服務規律(承前)

警保局出仕 眞 木 喬譯

第十一章 看守

第九十八條 先任看守ハ他ノ普通看守ノ上席トナリ上官ノ指揮セシ事務ニ從事シ土等看守ノ不在中又ハ上等看守ノ設置ナキ監獄ニ於テハ該官ニ屬スル事務ヲ代辨シ其責任ヲ負フモノトス

第二百二條 軍裝中ハ決シテ囚徒ノ所在ニ立寄ルヘカラス又十歩以内ニ囚徒ヲ近寄ラシムヘカラス常ニ囚徒ノ背後ニ居ルカ或ハ囚徒ノ看得サル所ニ居ルヘシ要スルニ囚徒ノ襲撃シ能ハサル所ニ占居スルヲ要ス

但シ囚徒ノ逃走ヲ企テ若クハ暴舉ヲナスルハ最モ迅速ニ其防禦ニ從事シ大聲ヲ發シテ之ヲ制止スルモ尙ホ鎮靜セス他ニ防禦ノ術ナキ時ニ當テハ砲發スルコトヲ躊躇スヘカラス

第二百三條 囚徒逃走ヲ爲シ又ハ逃走ヲ企タル場合ト雖看守ハ殘餘ノ囚徒ヲ安全ニ戒護スルノ必要アルニ依リ該殘餘囚ノ屬スル全部若クハ全組若クハ全種類ノ直接監督ニ任セル官吏ノ指揮アルニアラサレハ逃走囚ヲ追跡スルコトヲ得ス

第二百四條 看守ハ許可ヲ得サル外人ト囚徒ト交通シ又ハ外人ノ囚徒ニ許可ヲ得サル物件ヲ授與送込ス

第九十九條 看守ハ上官ノ命令ヲ慎重ニ且諫心ニ施行スヘシ

常務ノ外緊急ヲ要スル事アルキハ之ヲ處理スル爲メ晝夜ノ別ナク召喚セラレ又必要アルキハ他監ヘ轉勤ヲ命セラレトコトアルヘシ

第一百條 疾病ノ爲メ欠勤スルキハ監獄醫ノ證明アルカ又ハ特別ノ事由アルニアラサレハ其日欠勤數ニ對シテハ給料ヲ支給セス

第一百一條 武器擔當看守ハ適當ニ銃砲ニ裝填シ只之ニ雷管ヲ付シ置キ其取扱方ニ就テハ最モ注意シ災害ノ生セサル様ニ爲スヘシ又如此場合ニ於テハ常ニ革帶并ニ五箇ノ彈藥八箇ノ雷管ヲ有スル胸亂ヲ着用シ而シテ該彈藥ハ自己ノ銃砲ニ供用シ得ルヤ否ヲ取糺シ置クヘシ

武器并ニ被服ハ勤メテ之ヲ損傷スヘカラス又許可ヲ得スシテ之ヲ變換スルコトヲ得ス

ルコトヲ禁止シ又如此目的ヲ以テ監房若クハ役場ノ近邊ヲ徘徊スル者アルキハ之ヲ捕縛スヘシ又許可スヘカラサル物件ヲ包藏スルコトヲ發顯スルキハ該物件ヲ取押ヘ其事情ヲ看守長ニ報告スヘシ

第一百五條 夜警看守ハ其居所ニ近寄ル者アルキハ之ヲ誰何シ其何人タルカヲ確認スルニアラサレハ通過セシムヘカラス

又總テノ燈火ヲ點シ置クコトニ注意シ其他不整理ナルコトアレハ之ヲ手記シ且報告スヘシ

第一百六條 監獄内ニ住居スル看守ハ非番ノ時ト雖看守長ノ許可ヲ得ルニアラサレハ午後十時後ハ其宿所外ニ在ルコトヲ得ス

監獄外ニ住居スル者ノ宿所監獄ヨリ二百「ヤード」内ニ限ル但特別ノ事情アルニ由リ監獄官ノ許可ヲ得ルキハ三百「ヤード」マテ延長スルコトヲ得

第一百七條 賜暇又ハ公務ノ爲メ監獄外ニアリシ者歸

監スルキハ其旨ヲ看守長ニ届出ツヘシ
 第八條 就役因ノ監督看守ハ該就役囚ヲ督責シテ
 役業ニ勉勵セシメ又能ク秩序ヲ守ラシメテ工事ヲ
 適當ニ完了セシムルコトニ注意スヘシ

第九條 城塞警護看守ハ監内ノ全般ヲ通視シ自己
 ノ受持區域外ニ於テモ不整理ナルコトナキヤ否ヤ
 ニ注目シ又互ニ相應援スルコトヲ勉ムヘシ但シ上
 官ノ指揮アルニアラサレハ其受持場ヲ離ルヽコト
 ヲ得ス

第十條 見張所詰看守ハ如何ナル事情アルモ許可
 ヲ得ルマテハ決シテ其見張所ヲ離ルヘカラス又許
 可ヲ得テ其見張所ヲ離ルヽニ當テモ勤務中見聞ニ
 係ル特殊ノ事項ヲ交代者ニ告知スヘシ

第十一條 見張所并ニ規則揭示板(規則ヲ記載シア
ル揭示板ヲ云フ)及
 ヒ時計等ヲ毀損シ又ハ此等ニ落書スヘカラス
 交代ノ際ニハ其見張所等ヲ遂一検査シ破損若クハ

運動場役場分房普通監房病室其他ノ建物ト雖モ男
 女ヲ區分シ其鑰匙モ亦之ヲ區別スヘシ
 第十六條 女監ニ於テハ女監取締其他女監ニ必要
 ナル女官吏ヲ設置ス

一般ノ規程并ニ男子ノ相當官ニ施用スル諸規則ハ
 女官吏ニモ亦之ヲ適用ス
 女監取締身分ハ上等看守ニ女監取締副及ヒ工業監
 督吏ハ先任看守ニ相當ス

第十七條 女監取締ハ看守長ニ隸屬シ衛生法及諸
 規則諸教令等ヲ女囚ニ施行スルコトニ就テ責任ヲ
 有スルモノトス又女囚ニ屬スル物品及其携帶衣類
 ヲ保管シ必要ノ簿冊ヲ所持シ物品等ノ計算ニ從事
 シ又上等看守ニ屬スル職務ヲ執行スルモノトス

第十八條 看守長并ニ他ノ男官吏ハ女監房又ハ女
 監ニ通スル門戸ノ鑰匙ヲ所持スルヲ得ス又男官吏
 及ヒ男子ハ女官吏ノ誘導ニヨルカ若クハ女官吏ノ

常態ヲ變更シアルヲ發見スルキハ直ニ其旨ヲ具申
 スヘシ若シ之ヲ爲サス時經テ破損若クハ常態ノ變
 更シアルヲ發見スルキハ當時ノ見張看守又ハ其交
 代前ノ看守ノ内ニテ之カ責ニ任スヘキモノトス
 第十二條 夜間外部ノ見張所ニ詰合ハス所ノ看守
 ハ大雨ノ時ヲ除クノ外ハ見張所内ニ留ルヲ得ス大
 雨ニ際シ見張所内ニ入ルヲ得ルト雖其受持區内ハ
 屢々之ヲ巡警スヘシ

第十三條 各見張所詰ノ看守ハ巡視簿ヲ携帶シ官
 吏ニシテ自己ノ受持區内ヲ巡視スル者アルキハ之
 ニ其姓名ト時刻トヲ記載スヘシ
 第十四條 見張所詰ノ看守其見張所ニ於テ睡眠ス
 ルキハ直ニ其張番ヲ止メ情狀ニ由リテハ解職セラ
 ルヽコトアルヘシ

第十二章 女監取締
 第十五條 男女兩囚ヲ拘禁スル所ノ監獄ニ於テハ
 現在スル時ニアラサレハ女囚ニ屬スル運動場役場
 監房病室其他ノ場所ニ立入り又ハ之ニ留ルコトヲ
 得ス

第十三章 罰例
 第十九條 諸規則ヲ犯シ教令ニ違背シ勤務ヲ怠リ
 或ハ品行ヲ亂シ其他左ノ諸項ニ觸ルノ者ハ嚴重ニ
 處罰ス

一見張所ニ於テ睡眠スル者
 一勤務中許可ヲ得スシテ休憩シ若クハ談話シ又ハ
 讀書吸烟セル者
 一事ノ公私ニ係ルヲ論セス喧嘩口論シ若クハ毆打
 スル者

一許可ヲ得スシテ葡萄酒麥酒其他ノ酒類并ニ禁制
 物ヲ監獄内ニ入ルヽ者
 一故意ナルト否トヲ論セス信書若クハ物品ヲ囚徒
 ニ受授スル者

一故意ナルト否トヲ論セス信書若クハ物品ヲ囚徒
 ニ受授スル者

一 漫リニ盟約ヲ爲シ又ハ正當ノ手續ヲ經ス自己ノ職權ヲ以テ囚徒ト交通ヲ爲ス者
 一 許可ヲ得スシテ監獄内ノ備品并ニ其所屬品ヲ取除ク者
 一 許可ヲ得ス勤務若クハ監獄ヲ離ル、者
 一 骨牌又ハ勝負遊ヲ爲ス者
 一 酩酊又ハ非法ノ所行ヲ爲シ又ハ他人ヲ欺騙スル者

(完)

○獨逸監獄雜誌抄譯

西班牙國監獄 朝比奈又三郎譯

吾人ハ千八百八十四年刊行アル、チンス、デ、ラ、ソ、ニエチー、セチラール、第五及六卷ニ於テ博士アー、ヅワイー氏ノ記事ニ係ル十八世紀大不列顛ノ監獄ハ最モ嘆息ス可キモノナルヲ知レリ然ルニ十九世紀ニ於テ西國監獄又甚タ善良ナラサル有様ナルハ余輩ノ

極囚徒ハ官吏ヲ蔑視シ遂ニ監獄ノ規律紊亂スルニ至ルナラン又糧食ノ良否及ヒ其多少ニ關シテモ亦一人トシテ之ヲ心頭ニ懸ル者ナシ否之等重大ノ弊害ニ一墻壁ヲ築キ之カ防制ヲ爲ス者ナキハ浩歎ニ堪エサル處ナリ殊ニ醫術ノ如キハ監獄内ニ之ヲ設ルト云フノ口實ニ過キサルノミ故ニ些少ナル藥籠ヲ設ケ第一着手ノ施術ニ應ジ得ヘキ準備アルモノヲ以テ之ヲ最良ノモノトスヘシ又教誨師ノ如キハ殆ントナシト云フ所敢テ誣言ニアラサルヘシ

又建築ノ不注意ナルハ信スヘカラサル程ナリ千八百七十七年ノ政令ニ基キ築造シタル二三ノ町村ニ於ケル獄舎ハ稍々我國ノ獄舎ニ類スルト雖モ之レトモモ其町村ノ費用ヲ以テ全體ノ修繕費ニ充ツルニ足ラサル狀況ナルヲ以テ一般ノ監獄ニ付テ言ヘハ其獄舎ノ安全ト衛生上ニ欠點アルハ言フ迄モナク實ニ西國ノ獄舎ハ一ノ古跡ヲ看ルノ憾アリト

嘆息ニ堪サル所ナリ其狀況ハ監獄改良ニ付キ非常ノ熱心ト勉強トヲ以テ從事スル雜誌ヲ、レフ、ホルマ、ニテソチヤリヤ、ニ載テ明カナリ

現今監獄總務局長ノ監督ノ下ニアル處ノ大監獄ハ大ニ改良シタリト雖モ州及ヒ町村費ニ屬スル小監獄ニ至テハ長大息ニ堪エサル者比々皆然リ是等ノ小監獄ニ付テハ監獄總務局ハ殆ント其監督權ヲ施行セサル歟或ハ次下ノ官廳之ヲ爲サ、ルヤノ憾ナキ能ハス雜誌レフ、ホルマ、第二百九十八號ハ、アルメリヤ、監獄ノ記事ヲ載テ曰或ル囚徒重病ニ罹リシニ監獄ニ於テハ之カ必要ノ保護ヲ爲サ、ルノミナラス之ヲ病院ニ送致セサルノ故ヲ以テ該囚ハ高等法術ニ之ヲ告訴セリト尙ホ本記事ノ附言ニ曰官吏ノ任免ハ總務局ニ於テ之ヲ爲スト雖モ其俸給ハ町村ノ負擔ナリ故ニ若シ町村ニ於テ之カ支出ヲ怠ルモハ官吏ハ之ヲ自辨シテ其置位ヲ保クノ止ムヲ得サル事情アリト之等ニ據リ其

レフ、ホルマ、ニ於ケル右等ノ記事ハ殆ント枚擧スルニ暇アラズ而ノ同雜誌再號ノ記事ニ於テ未遂及ヒ已遂逃走囚ノ數ヲ掲載スル如キハ敢テ驚クニ足ラサル處ナリ此逃走ハ鐵道押送中ニ生スルコト少シトセス又同雜誌ハ吾人ニ報シテ同囚徒錘ヲ以テ瀉車ノ床板ヲ開切シ列車除行ノ際逃走セリト

戒護ノ充分ナラサル證據ハ獄内ニ於テ囚徒互ニ創傷シ又ハ殺人ノ所爲アル等ヲ以テ見ルモ足レリトス、レフ、ホルマ、ハ屢、此ノ如キ事實ノ多數ヲ報導セリ

該雜誌ニ記載スル囚徒作業ニ關スル月數ニ於テモ亦奇異ナルコト少シトセス則チ千八百八十五年一月總現在囚ノ數ハ一萬九千四百二十一ニシテ此内看守、書記、使丁及ヒ看護人等即チ事務員タル者二千百六十二人ナリトス而ノ教育事務ニ至テハ讀書習字ヲ爲シ能ハサル囚徒殆ント半ハナリト雖モ其教授ヲ受クル者平均甚タ少シ茲ニ於テカ總務局ハ布令ヲ發シ教育

チ以テ四人ノ爲スヘキ義務ノ一ト爲シ尙ホ勅令チ以テ作業條例ヲ定メタリ之ヲ真正ニ實行セハ監獄ノ休面ニ一大進歩ヲ爲スヘキハ敢テ疑チ容レヌ然ルニ法律規則ニ於テ一モ間然スル處ナシト雖モ之ヲ實施セシムルニ嚴ナラサルチ以テ其進歩ヲ看ル能ハサルナリ

又西班牙監獄ノ奇異ナル点ハ殆ント四人チノ文章ヲ研究セシムル處ナル哉チ疑ハシム雜誌レフホルマニ於テ殆ト之レヲ記載セサル号ナシ其記事タルヤ宗教ノ祭典ニ關シ或ハ官吏ヲ褒貶シ又ハ糧食衣服等ニ就キ之レヲ愁訴スルノ類ナリ而ノ就中糧食衣服若クハ之レニ類似ノ事ニ關スル記事其多數ヲ占ムルハ疑ナキ事實ナリトス

書翰ノ檢閱ハ全ク施行セサル規定ナルカ否ヲサレハ當該官吏之ヲ等閑ニ付スルモノト信ス茲ニ、レギタ

一監獄ノ囚徒ヨリ其監獄ノ醫員轉任ニ際シ之レニ送

リタル頌徳表ヲ示サン曰「我等カ敬愛スル我等カ保護者タル醫員カンヂドー、ヨール、サラジヒ君ハ榮轉ノ故チ以テ今夕我等ト訣別ス此別離ヨリ生スル我等ノ愁苦如何ノ我等ハ常ニ滿腔ノ熱血ヲ注キ天下ニ愁訴セン我等ノ良國手我等ノ尊敬スル嚴父ヲ失フタルチ」雜誌第三百五号ニ於テハ在ドナコンチエブチチナール「監獄囚徒ノ作ニ係ル優美ナル詩歌ヲ記載セリ此ノ如キ事ハ敢テ稀ニ見ル處ニアラサルナリ吾人ハ前記宗教ノ祭典ニ一言スル所アラントス、オステルリッヘー、コンムニオン、トハ四人ノ爲メニ其肉体上ノ關係ニ於ケル祭日ナリトス當日ハ其地ノ住民及ヒ官吏ニ監獄ヲ縱覽セシノ囚徒ノ爲メ會食ノ宴ヲ開キ金錢ヲ與フルアリ其食物ハ或ハ簡單ナルアリ或ハ自由ノ人民タル吾人チシテ看過スルニ忍ヒサル程ノ美食ナルアリ

(以下圖出)

烟火ノ途中ニ裂碎アリテ是ヨリ火氣ノ飛出シタルモノナリ或ハ曰ハント是ハ家婦手燭ヲ以テ此小室ニ至リ襪履ヲ探リシ時誤テ火ヲ落シタルヲ知ラザルニ基クナルベシト然ルニ是等ノ諸説ヨリモ遙ニ實驗上學理上眞實ニ近キ推所アリ何アヤ曰ク化學作用ニ因リテ自然ニ發火セシモノナリ

編者曰以下原書ノ儘悉ク掲載シ來ルルハ化學作用器械ノ裝置等専門學ノ事柄ヲ以多クノ紙數ヲ慎重塞セサル可ラスト雖モ警察官、司獄官諸君ノ爲メ之ヲ掲クルノ必要アルヲ見ス寧ロ實際ニ適切ナル消火技術ニ移リ之ヲ掲載スヘシ讀者夫之ヲ諒セヨ

第六章 第二節 各論

第一項 室倉ノ火事

室倉トハ家屋ノ最下部地平ノ下ニアリテ通例物置ノ用ニ供スルモノナリ是ハ酒類油類又ハ木材等ヲ貯蓄シアリテ且空氣ノ流通甚タ惡シキカ爲メニ火事ノ時ハ非常ニ濃厚ナル煙ヲ生スルヲ常トス故ニ其消防ハ甚タ困難ナルモノトス

第一ノ方略ハ各空隙ヲ塞キテ空氣ノ流通ヲ止ムヘシ之レハ温シタル破綻チ以テ栓塞スルナリ

「アントウエールメン」「アムステルダム」「マールセール」等ノ荷積所「ラングドック」ノ酒類荷積所等ニ於テハ此目的ニ用ユル爲メニ室室ノ入口ニ石ヲ置クヲテ布告シタリ

木造ノ室倉ハ陥落スルノ憂ヒアルチ以テ其家ノ住人ニ對シテ危險ノ懼レアリ故ニ室倉ノ火災ノ時其密閉ヲ終レハ先ツ直チニ住人ニ就テ室倉ノ構造其内燃燒物及火ノ其内ニ在ル位置ヲ尋問シ然ルノ中室倉ニ一箇ノ空隙ヲ開キ水管ヲ下ケテ攻撃ヲ始ム此時消火用チ一二箇火中ニ投入スルヲ甚タ良策ナリトス

煙リカ許ス限リハ直チニ一人ノ火潜リ器械ヲ備ヘ付ケ蓋口一挺、鎚一挺、救護繩及水管ヲ携ヘタル筒先チ室中ニ送ルヘシ若シ酒、油等ノ荷物充滿スル爲メ闖入スルヲ能ハサル時ハ即チ最後ノ手段トシテ砂ヲ投入スルカ又ハ水浸シニスルノ外ナシ

穹隆ニ積ミ上ケタル天井ヲ有スル室倉ニアリテハ迸水チ之レニ當ツルヲ避ク可シ熱セラレタル石壁ニ急ニ水チ當ル時ハ直チニ夫レニ「イガミ」ヲ來シ陥落ヲ生スルモノナレハナリ

中ニ下リタル筒先ハ火ノ回りニアル物体ヲ取片付ル爲メニ一端ヲ提ヒ來レル救護繩(火ニ燃エヌ)チ以テ

之レニ結ヒ笛ヲ以テ引上ゲノ暗號ヲナスヘシ
酒及油類ノ燃ツ、アル時ハ进水ヲ之ニ當ルナカレ其
周圍ニ在ル物体ヲ全ク消止メタル上ニテ濕ヒタル蔽
ヒ又ハ砂利等ニテ之ヲ室塞スルヲ勉ム可シ

第二項 下階ニ於ル火事

前者ニ比シテ較ヤ便利ナルハ四方ヨリ近寄ルヲ得
ルヲナリ此失火ノ場合ニ於テハ先第一ニ窓戶ヲ閉塞
シテ火焰ノ上階ニ向テ飛揚セントスルヲ防クヘシ此
際上策ナルハ兩側ヨリ同時ニ火ヲ狭ミ攻ムルヲナリ
火勢ノ盛ナル處ノ直上ニ當ル上階ノ部屋ニ於テハ速
カニ適當ノ準備ヲ爲シ以テ必要ナル場合ニ於テハ上
階ヨリモ攻撃スルノ手段ヲ定ムベシ
隊長ノ先ツ其注目點ト定ムベキハ上階ニ昇ル爲メノ
階段ガ火ノ爲メニ危險ヲ蒙ムラザルヤ否ヤト家財ノ
救護ハ唯尤モ危險ニ接近シタル時ノミ行フニ在リ徒
ニ家財ノ救護ヲ急グ時ハ却テ其運動ヲ妨害セラル、
モノナリ

燃焼物ヲ多ク蓄ヘタル戸棚等ノ火災ニ際シテハ先ツ
其火源及燃焼物ノ位置ヲ知了スルヲ要ス火ガ外部
ヨリ來リテ戸棚中ニ侵入シタル場合ニハ先ツ周圍ノ
火ヲ消止シメタル後其戸棚ノ火ニ當ル可シ之ヲ成ス
閉塞シテ他階ニ火ノ蔓延スルヲ防遏スベシ
火源ヲ制限スル爲メニ二階火事ノ如キ時ニ於テハ燃
燒物ヲ取除クノ必要ナリ但シ是ガ爲メニ消防手段
實行ニ防害アル如キ時ハ之ヲ成スベカラズ
家財ノ救助法ハ階段ヲ連ナリテ人夫ヲ起ハリ取次ノ
方法ニ因ルヲ至便ナリトス輒大ナル且數毀損シ難キ
物品ハ用心籠、麻布又ハ用心管等ヲ以テ釣リ降スチ
宜トス床ノ上ハ鎮火後直チニ取片付クベシ是ハ其下
ノ部屋ノ天井ガ水ノ爲メニ汚損セラレヌ爲メナレバ
ナリ

床火事ノ元因ヲ探ルニ煙突ノ積方惡キタメ生セシ罅
隙ヨリ或ハ煙出シノ不完全ナル勝手電平爐等ヨリ發
スルヲ常トス此ノ如キ場合ニ於テハ已ニ火トナル前
ヨリ紅烙ノ有様トナリタルモノニシテ一旦煙ノ立昇
ルニ至ルモ其火源ハ一寸認メガタキ程ノノアリ
時ニ因テハ煙ノ充滿スル程ナルニ拘ラズ床板ニ些少
ノ火源ヲモ認メズ而シテ其煙源タルヤ全ク煙突ノ罅隙
ヨリ出タル煙ガ床下ニ充塞スルニ基クガ爲メニノ竈
或ハ暖爐ヲ消ストトモニ煙モ亦消滅スル如キ間々
之レアリ善ク熟練シタル消防夫ハ其煙ノ臭ニテ已ニ
其源ヲ認メ火ガ實ニ床下ニ存在スルヲ知ルキハ直

ハ室倉ニ於ケル如クナスナリ

第三項 上階ニ於ケル火事

上階ト下階ノ消火法ガ異ナルトコロハ唯上階ノ場合
ニハ水管ヲ運ビ上ゲザル可ラザルヲト火源ニ近寄ル
ノ稍困難ナルヲトナリ此時ニ於テ主眼トナス所モ亦
筒先ガ出來得ル丈ク火源ニ接近スルヲナリ階段ヨリ
攻撃ヲ成スル最上策ナリ畢竟階段保存ノ必要トスル
所以モ是ガ爲メナリ若シ階段ニ因ルモ別ニ梯子ヲ持
來ルモ此上階ニ昇ルヲ能ハザル時ハ隣家ヨリ攻撃ヲ
成スベシ

必要ナル場合ニ於テハ壁ヲ穿テテ之ヲ成スモ可ナリ
其一段上ノ上階ヲ支障スルトコロノ柱材ハ速ニ消止
メザル可ラズ然ラザル時ハ天井ノ陥落ヲ來スヲアル
ベシ煙ハ常ニ天井ニ向テ昇ルモノナルガ故ニ床ノ部
分ニ於テ殆ト煙ノ存セザルヲ常トス此故ニ筒先ハ匍
伏シテ火源ニ至リ攻撃ヲ加フルヲ得ベシ

陶器類、鏡臺、時計等ノ如キ毀損スベキ物体ニ进水
ヲ向ケルヲハ出來ル丈ク避ケザル可ラズ何トナレバ
部屋火事ノ場合ニハ火ノ爲メニ被ムルトコロノ損害
ヨリモ水ノ爲ニ被ムル損害ノ方却テ大ナル如キ間
々アルヲナレバナリ此時モ亦其他出入口等ハ凡テ

ニ最モ熱シタル床板ヲ剝キ取リテ立上ルトコロノ火
焰ニ向テ充分ニ水ヲ注キ以テ消火ノ功ヲ奏スルヲナ
リ然ル后其隣接セル床板ヲ順チ進テ取除キ同法ヲ
施スヲナリ尙ホ煙ノ立上ル間ハ火ハ未タ消滅セザル
ナリ此際注意スベキハ一度ニ消止ムルヲ得ザル
程廣キ部分ノ床板ヲ同時ニ取除クヘカラザルヲナ
リ

第四項 煙突ノ火事

煙突ノ火事ヲ消ス方法ノ良策トスルハ酸素供給ノ道
ヲ遮斷スルヲナリ之ヲ成スハ其口々ヲ閉ルカ其内ニ
鐵炮ヲ射込ムヲナリ兩方共夫々不便ナル點アルヲ免
レズ即チ斯ノ如クシテ消止メタル後ハ燃燒質ノ瓦斯
ヲ生シ其ガ集合スル爲メ爆發ヲ成スヲアレバナリ
「ワイセル」氏ハ下ノ如ク煙突消火法ヲ考案シタリキ
煙突内ノ火ハ唯其蔓延ニ任セ自由ニ燃エシムヘシ而
ノ其下底ノ口ニ大ナル容器ヲ据エ之ニ水ヲ充シ紅烙
セル燃燒物ハ皆落チ込マシテ消ユル如クシ各階ニハ
煙突ノ番チスル爲メ一人ノ火夫ヲ付ス可シ此者ハ一
ノ小ナル手斧一手桶ノ水及一ノ床掃除ニ用ユル如キ
破縷ヲ用意スベシ今煙突罅隙等ノ生シタル場合ニハ
此破縷ヲ水浸シニスルカ又ハ塗泥ヲ備エタル時ハ直

チニ之ヲ以テ塗付ヲナス可シ又烟突ノ上口ヨリ熱シタル燃燒物が飛揚スルヲ防グ爲メニハ金網ノ如キ物ヲ以テ其口ヲ蓋ヒ時々之ヲ振動カスベシ

第五項 屋根棟ノ火事

此ノ時ハ支柱ヲ保存スルヲ最モ必要ニシテ屋根ノ棟モ亦万止ムヲ得サル時ニ非ラズンハ之ヲ取毀ツヲ不可ナリ此等ノ事ニ就テハ下ニ列掲スルカ如キ數條ノ注意アリ

第一、失火ノ發見尙ホ早キ時ハ家根瓦ヲ剝取ルヲハ避サル可ラス是空氣流通ノ路ヲ成ル可ク與ヘサラシカ爲メナリ

第二、消防夫ハ最モ火源ニ近接スル所ニ於テ手桶消火布又ハ「ボンブ」ヲ以テ消防ヲ試ミ決シテ逆水ヲ以テ直接ニ屋根ノ裏板ニ當ルヲ禁ス唯横木接續部及支障部等ニ向クヘシ

第三、火事ノ間ニ取毀チタル木材又ハ土塊等ハ凡テ取離シテ置クヲ要ス是レハ其内ニ含まレタル火氣カ成ル可ク速ニ散滅センカ爲メナリ而シテ此土塊等ハ入口ノ上ニ投ケ落ス可ラサルハ明カナリ

第四、烟突ノ倒ル、危険ヲ避ルカ爲メニ烟突ヲ支障スヘキ部分カ盡ク破壊シ去ラレタルカ如キ場合ニハ

火夫等ハ此烟突ノ取毀チニ從事スヘシ
第五、火力既ニ蔓延シタル場合ニハ隣家ヨリ攻撃ヲ成スヲ要ス而シテ危害ニ迫リタル隣家ノ家根ハ常ニ水ヲ以テ浸シ置クヘシ

第六、此ノ如ク水ヲ以テ防護スルモ隣家ノ屋根蓋危険ニ迫リタル如キ場合ニハ此屋根棟ハ取毀ツヲ勉ムヘシ

屋根棟ノ火事コソ實ニ建築上ノ知識ヲ要スヘキ場合ナリ獨乙保險新聞ノ謂ヘル言ニモ屋根棟ノ何如ナル構造ナルヤヲ知ラサル消防隊長ノ如キハ此等ノ火事ニ遭遇スル時ハ一生懸命ニ裏板ヤ横木ノ攻撃ニ從事スルコトナルヘシ何トナレハ此部分カ一番盛ニ火焰ヲ出シツ、燃ユルヲナレハナリ而シテ屋根構造ノ關節部支障部ノ如キハ之ヲ放置シテ炭火セシメ遂ニ屋根ノ陥没ヲ來スニ至テ周章スルモノナリ又現今消防學ノ書ヲ著ス人モ亦家屋構造ノ知識ニ乏シキハ悲シム可キヲナリ書物中家根ノ構造ナトチ見ワス所ノ圖ナトチ見ルモ極メテ初心ノ大工ニテモ其非チ知ル如キ惡シキ構造ヲ畫キ怙トシテ之ヲ悟ラス世人モ亦是等ノ消防書ヲ珍重スルヲアルハ抑モ何事ソヤ

(以下副出)